

# 飯田市小中連携・一貫教育 令和元年度 実践報告書



2020年2月

小中連携・一貫教育推進委員会  
飯田市教育委員会



1 めざす子ども像

「丘の上」に愛着をもち、自主・愛他の精神に満ちた子ども

「学び合い、高め合う子ども」「ねばり強い子ども」「愛他、思いやりのある子ども」

【実現のための3つの目標】

- ①学力・体力の向上
- ②人間関係づくりと心の育成
- ③地域・家庭との連携

2 取組の重点

- (1) 昨年度の交流・連携活動を継続実践し、子ども・職員がその過程での成長や変容を具体的な姿で実感できるよう深めていく。
- (2) テーマ別委員会の取り組みを中心に、各学校において共通理解を図り、共有化してお互いの実践を学び合う。
  - ①授業改善
    - ・児童生徒が、学習カード（ノート）を利用して「書く」活動により、自己の学びを振り返り、次時への関心・意欲を高められるようにする。
    - ・小中一貫したまとめや振り返り方法を意識し、学習が定着する授業を目指す。
  - ②人間関係づくり
    - ・人間関係力委員会の取り組みを中心に、小小間・小中間で交流を行う。
  - ③9年間の教育課程
    - ・学力向上委員会や英語外国語委員会やキャリア教育委員会等で9年間を見通して作成した全体的な計画を、各校の教育計画に反映させていく。
  - ④組織の構築
    - ・テーマ別委員会をはじめ小中連携一貫の活動を行うとき、地区の方にも運営として協力していただく。
- (3) 保護者、地域の方への情報発信のさらなる充実と飯田コミュニティスクールの実施と情報交換を行う。

3 取組内容と成果（子どもの変容）

飯田東中学校区小中連携職員研修会において、今年度の取り組みの見返しと今後に向けてテーマ別委員会を中心に話し合った。

(1) 授業改善

- ①体力向上に関する授業づくりについて、3校共通の課題として、児童生徒の競技レベルにあった授業をいかに展開するかが大事であることが挙げられた。例えば「バレーボール」の学習を進めるにあたっては、フロアバレーボール、ワンバウンドバレーボールという段階からスタートし、学習意欲を下げないように進めることが必要である。
- ②英語・外国語活動からは、小中の教科書や教材を見合い、学年における学びの違いを確認した。また、小学校の「音」から入る活動と、中学校の「書く」活動とをどのように接続していくか、課題として挙げられた。今後は、実際の授業をもっと見合い、課題について授業の工夫を行う。また、スモールトークの実践について、小学校で扱っている具体的トピックを知るとともに、中学校でどのように発展させるか考えた。
- ③学力向上に関して、昨年度完成した「義務9カ年の学習のイメージ」をもとに、小中共通の教室掲示物「授業の約束」の活用を行った。小学校では4月から掲示し、中学校は2学期から行った。

テーマ別委員会	
A	学力向上・授業づくり
B	体力向上・授業づくり
C	人間関係表現力
D	キャリア教育
E	英語・外国語活動
F	特別支援・不登校支援

小学校低学年では、「失敗間違いOK」のポイントにより、遠慮なく挙手し、発言する児童が増えた。チャイムへの意識等は、常に掲示してあり指導、意識付けに効果があった。

- ④「義務9カ年の学習のイメージ」の改善点を探し出した。小学校では、5・6年生の自主学習が、中学校では家庭学習の習慣づけが課題として挙げられた。

## (2) 人間関係づくり

- ① 7月21日、飯田東中学校有志合唱団・追手町小学校合唱団・浜井場小学校合唱団の3校で千葉県から講師をお招きし、合同合唱講習会を行った。



- ・子どもたちの感想には、「小学生と関わりながら、楽しく発声を学ぶことが出来たのでよかった」「中学生とペアで発声練習ができて楽しかった」「なかなか他校の合唱団の練習風景をみるできないので貴重な機会だった」とあり、今年度の中心課題のひとつである「時間の共有だけではなく児童生徒が心の交流を行うために、感想を交換し合うことで子どもたちが相手意識をもったり、感受力を高めたりできるようにする」に働きかける交流になった。飯田東中が学芸会をひかえるなかで、小学生が学芸会の音楽会へ参加をするにあたっての心構えや練習の仕方を確認し、さらに、学芸会の感想を、相手意識をもって“手紙で伝え、中学生から返事をもらう”等の交流を作っていくたい。
- ・学芸会後は、小学生からのメッセージカードのプレゼントを行った。掲示の前で中学生が立ち止まって読んでおり、とても嬉しそうだった。メッセージは手紙形式にしたので、手紙の書き方も小6生は学べた。少し堅苦しい感じになったかもしれないが、先輩達への敬意をもって書けたというところは良かった。

- ② 読書旬間等で作成した本の紹介を、3校で交換し掲示した。立ち止まって熟読している様子あり。特に小学校では高学年がよく見ている様子があった。中学校の図書館の様子の写真があると、より期待がふくらむのではないかと。
- ③ 特別支援・不登校支援に関して、6月11日、中学校特別支援学級及び1学年の授業見学と説明会を行った（授業参観→中学校より説明→質疑応答）。昨年度までは小学校保護者（5・6年）が対象だったが、今年度から児童も加えた。この会は、保護者にとっては就学判断の材料にもなるので必要不可欠と感じている。児童にとっても早い時期に中学校の様子を知ることは大切なので、今後もこの方向で行うことを考えている。
- ④ このような特別支援・不登校支援に関する連携は、徐々に成果が出てきている。4月スタートから不登校になる心配があった生徒については、昨年度中から小学校、保護者と連絡を取り合いながら特Coを中心に支援体制をつくってきた。現在は生き生きと学校生活を送る姿が見られる。
- ⑤ 小中特別支援学級りんご収穫交流会  
10月11日、飯田東中にて、児童27名、生徒13名、職員17名、計57名の参加により、シナノスイートの収穫体験と、記念撮影、りんご試食交流会を行った。

児童にとっては、中学校のイメージをつかんだり、礼儀やソーシャルスキルを学んだりする良い機会になった。また、6年生にとっては他校の支援学級と交流することで、来年度の仲間の雰囲気もわかり、中学校への見通しをもつ機会にもなった。

中学生は当日の進行やあいさつ、班の児童の世話などの役割分担を決め、先輩らしく、小学生をしっかりもてなすというミッション遂行のために、その役割を果たそうという姿が見られた。ふだん中学生のなかでは見られないがんばりや生き生きとした姿がこの会で見られ、大勢の前での挨拶や進行も、原稿を用意して臨むなど、中学生が成長できる好機会になった。



⑥小中連携りんご並木収穫作業（10月7日）

追手町小・浜井場小・丸山小の6年生と東中生徒が  
 ともに行う作業は、5月の摘果、7月の親子除草、10  
 月の収穫と3回ある。共同作業を行うことを通して、  
 来年度以降、ともに並木に関わっていくという期待  
 感や実感が芽生えるような機会としている。りんご  
 並木の維持管理に、東中入学予定の児童が加わるこ  
 とで、りんご並木を体験的に知り、りんご並木に対す  
 る意識を入学前から醸成することにつながっている。



低い枝は自分で取れたけど、高いところは中学生にはしごを支えてもらって取ることが  
 できた。5月から作業をしたりりんごが大きくなってうれしい。最初は枝ごと収穫してしま  
 ったけれど、慣れてきたら簡単だった。

(3) 9年間の教育課程

①キャリア教育に関して、昨年度作成した三校「小中一貫キャリア教育全体イメージ図」を  
 もとに各校での実践の様子に  
 ついて情報交換を行った。小学  
 校からは児童の意識にそった  
 学習を行うこと、中学校から  
 は、まちづくりについて、他の  
 地域から来られた方々の意見  
 を聞いたり学んだりする機会  
 を大切にするとともに、出会わ  
 せたい人の紹介もあった。委員  
 会に参加された学校運営協議  
 会委員の方からは、飯田を離れた  
 時、郷土愛を感じることで  
 できる生徒を育ててほしいと  
 という意見が出された。LG  
 の視点に即したものにしてい  
 くために、浜井場小学校のキャ  
 リア教育年間指導計画(下記参  
 照)をもとに、作成のための作  
 成にならぬようなつくり方  
 について考え方の共有ができた。

**追手町小・浜井場小・飯田東中「小中一貫のキャリア教育」全体イメージ図**

**丘の上を愛し、丘の上とともに生きている自分を見つめ、  
丘の上の未来と自分の夢を主体的に創造していける子供**

人 ○ まち ○ 仕事

①人とつながる力  
(結いの力)

②自分を見つめ、夢  
や目標を描く力

③課題をもって最  
後までやりぬく力

④職業や仕事について  
興味や関心をもつ力

⑤ふるさとよさに  
気づき自ら関わる力

<p>中学校3年 【地域と共に生きる】</p> <p>○身体でふれる 心でふれる 一福社体験学習 ○市街地のまちづくりへの、りんご並木への手入れ 作業を通しての参画【人・まち・仕事】</p>	<p>○「働く」が創る一松本のまちづくりと職場体験 ○市街地のまちづくりへの、りんご並木への手入れ 作業を通しての参画【人・まち・仕事】</p>	<p>学友会活動 委員会活動 高校体験入学 先輩に学ぶ 特活:道路を考える。</p>
<p>中学校2年 【地域と関わる】</p>	<p>○「新野発見」学習 一阿南キャンプ ○市街地のまちづくりへの、りんご並木への手入れ 作業を通しての参画【人・まち・仕事】</p>	<p>学友会活動 委員会活動 特活:働く人々(職業調べ) 道徳:勤労の尊さと意義</p>
<p>中学校1年 【地域を知る】</p>	<p>○「新野発見」学習 一阿南キャンプ ○市街地のまちづくりへの、りんご並木への手入れ 作業を通しての参画【人・まち・仕事】</p>	<p>学友会活動 学級活動 特活:つかえの中の自分 道徳:個性や立場の尊重</p>

活動例:追手町小	活動例:浜井場小
<p>小学校高学年 地域に発信する 他地域に学ぶ</p> <p>6年 飯田市のパンフレット作り・CM作り【人・まち】</p> <p>5年 米作り【人・まち】 郷土の偉人調べ【人】</p>	<p>6年 浜井場の良さを伝えるCM作り・内箱 祭一景観な浜井場を伝える【人・まち】</p> <p>5年 遠山での農業体験【まち・人・まち】 霜月祭への参加【まち・人・まち】</p>
<p>小学校中学年 地域とふれあう (文化) 地域をめぐる (探検)</p> <p>4年 和菓子調べ・和菓子作り、 天竜船下り【人・まち】</p> <p>3年 人形劇の町飯田調べ 人形劇フェスタに向けて【人・まち】</p>	<p>4年 橋北屋台囃子の体験【人・まち】 東野大獅子の体験【人・まち】</p> <p>3年 地域の人とお米を育てる【人・まち】 野成川をきれいにする【まち・人・まち】</p>
<p>小学校低学年 地域と出会う 地域にふれる</p> <p>2年 丘の上探検・大豆の栽培【人・まち】 飯田の犬大調べ【まち】</p> <p>1年 はるさがし 動物園に行く【まち】</p>	<p>2年 地域の人とお米を育てる【人・まち】 地域の人と豆を育てる【人・まち】</p> <p>1年 地域の公園や寺を訪ねる【まち】 1年生ランドを作る【人・まち】</p>

各教科・道徳・特活  
総合的な学習の時間

児童会活動  
クラブ活動  
異年齢集団活動  
家庭科:家族の大切さ  
道徳:自己肯定感

係・当番活動  
クラブ活動  
社会:まちたんけん  
体育:大きくなった私の体  
道徳:身近な人々の協力

係・当番活動  
調音・栽培活動  
生活:自立への基礎  
道徳:約束やまじり

「LG(地域・地球)飯田教育」の視点から、ふるさと学習とグローバル教育の一体的な推進を中核に据  
 えて、学校、地域、事業所、家庭と連携してさらに推進する(「第2次 飯田市教育振興基本計画」より)。

浜井場小学校1年 キャリア教育年間指導計画

①人とつながる力 ②自分を見つめ、夢や目標を描く力 ③最後までやりぬく力  
 ④職業や仕事について興味や関心をもつ力 ⑤ふるさとよさに気づき自らかかわる力

学期	行事・体験活動	教科・総合	学級活動	道徳	家庭・地域とのかかわり
1	縦割り班活動 全校遊び①③ 縦割り班清掃①③ 避難訓練①④ 交通安全教室①④⑤ 浜小ドリル②③ かわらんべ遠足①⑤ 体カテスト②③	国語:ふたりでおはなし①③ 算数:たしざんひきざん③ 生活:はるがいっぱい①⑤ はたけでそだてよう①③ わたしのあさがお①③ 音楽:音楽会に向けて①②③ 図工:かたちやいろをたのしもう①③	1学期のめあて ①②③ 係活動・清掃・給食 当番など①~⑤ あいさつ指導①⑤ 夏休みに向けて①② ③⑤ 学期末清掃③	なかよくね① おしやべり① どうしてこうなるのかな ④ かぼちゃのつる② きんのおのど いつもありがとう④ あさがお③	浜小結いの日・町内児童会行事 ①⑤ 参観日①② 親子レク①⑤ 音楽会①⑤
2	マラソン大会②③ 人権教育月間①② なかよし祭り①③ 防災訓練①④ 浜小ドリル②③	国語:おはなし書いて①③ 算数:20までのかず③ 生活:えんそくにいこう①④⑤ あきさがし⑤ はたけのしゅうかく①③④ 音楽:にほんの歌⑥ 体育:運動会に向けて ①②③ 水泳を楽しもう ①②③	2学期のめあて ①②③ 係活動・清掃・給食 当番など①~⑤ あいさつ指導①⑤ 冬休みに向けて①② ③⑤ 学期末清掃③	はしのうえのおか① やめなさいよ① いきているって② みんながつくうばしょ だから① おふるそうじ④ きゅうしよくとうばん④ なわとびカード② 二わのごと①	浜小結いの日・町内児童会行事 ①⑤ 参観日①② 資源回収①⑤ 運動会①⑤
3	スキー教室①②③ 性教育月間② 6年生ありがとう集会①②③ 卒業式①③ 浜小ドリル②③	国語:いいこといっぱい1年生①②③ 生活:大きくなったぼくわたし①③ もうすぐ2年生①② 図工:かみはんがをしよう②③ 体育:跳び箱・マットを使った運動 遊び①②③	3学期のめあて ①②③ 係活動・清掃・給食 当番など①~⑤ あいさつ指導①⑤ 春休みに向けて①② ③⑤ 学期末清掃③	やればできるんだ② くりのみ① あしたはえんそく① ちいさなふとん④ シートンどうぶつ②	浜小結いの日・町内児童会行事 ①⑤ 参観日①②⑤

#### (4) 組織の構築

- ①今年度の小中連携職員研修会には、三校の学校運営協議会委員の方々全員にご出席いただいた。会議中、地域の方が積極的に発言する姿が見られるようになってきた。願いや課題を学校と地域が共有し、めざす子ども像の実現を図りたいと考えているので今後も、どのようにテーマ別委員会にかかわっていただくか意見交換をしながら進めたい。

#### 4 課題

##### (1) 授業改善

- ①A 学力向上：小中共通の「授業の約束」継続。思考の流れがわかる板書の工夫。授業の振り返りと「書く」活動の積み重ね。
- ②B 体力向上：児童生徒の競技レベルにあった授業の展開。授業の振り返り時間と運動時間のバランス検討。
- ③E 英語・外国語活動：
- ・スモールトークは小学校で行ったことを中学校でさらに発展できるような授業展開を。
  - ・小中相互の授業参観の機会を増やしたり、日常の授業をビデオに記録したりして第2回の委員会時に授業検討を行えるとよい。

##### (2) 人間関係づくり

- ①C 人間関係表現力：生徒会（学友会）と児童会のつながり
- ・今年度の本の交流を小中の図書委員会で連携して行っていくことで、子ども同士の中で心の交流が図れるのではないか。人間関係表現力委員会の構成メンバーは、音楽科、図書館（図書委員）担当の先生、国語科。また、もし可能であれば清掃に関わる小中連携も考えたい。
- ②F 特別支援・不登校支援：
- ・引き続き、スムーズな中学校進学への連携した支援体制作りに努める。小中特別支援学級りんご収穫交流会の開催日については日程調整。

##### (3) 9年間の教育課程

- ①A 学力向上：目的意識をもった家庭学習になるよう働きかける。「義務9カ年の学習のイメージ」の有効活用。
- ②D キャリア教育：各校で教科横断的な内容を含むキャリア教育年間指導計画の作成。

#### (4) 組織の構築

- ①テーマ別委員会について
- ・6つの委員会の委員長を中心に実践を進める。また、学校運営協議会委員の方々をどのようにテーマ別委員会にかかわっていただくか意見交換をしながら進めたい。
- ②学校運営協議会委員の方から、小中連携職員研修会に参加してのご意見

先生方の、子どもたちを前にした普段の姿とは違うプロの教育者としての姿を伺うことができた。学力向上委員会に出席し発言もさせていただいたが、東中の全クラスの授業参観から、昔に比べて先生方の授業の進め方や子どもたちとの対話の進化に納得した。先生方それぞれの（授業の）スタイルがあるにせよ、「学習のイメージ」表にあるような大枠があれば、先生による差異も少なくなると感じた。

## 1 めざす子ども像

ふるさとを愛し、ふるさとともに生きている自分を感じ、ふるさとの未来と私の夢を創造している児童・生徒

## 2 取組の重点

- (1) 小中の学校目標や願う子どもの姿の共有化を図り、一貫した指導で授業改善を図る。
- (2) 特別支援教育の充実と仲間を支える豊かな心と実践を育むために、ピア・サポート指導を導入した人間関係づくりを進める。
- (3) 地域資源を活用した9年間を貫く「かざこし学習（ふるさと学習）」の推進  
・願う5つの力を活動の構想や評価に活かし、地域と連携協力した飯田型キャリア教育の実践を積み重ねる。（小中一貫キャリア教育年間指導計画や総合的な学習の時間指導計画の修正を進める）
- (4) コミュニティスクールの機能を活用して小中の連携を深め、その成果を広報していく。

## 3 取組内容と成果

### ○第1回小中連携・一貫キャリア教育合同研修会

5月13日（月）15:30～16:45 丸山小会場

《研修内容》

- 1 丸山小・飯田西中コミュニティスクールの目的と組織について
- 2 昨年度までの小中連携の成果と課題
- 3 グループ協議  
テーマを「9年間の育ちを見通して、小中連携して取り組んでいきたいこと」として、学力向上①②、体力向上、生活指導、特別支援、地域連携の6グループに分かれて協議した。



### ○第2回小中連携・一貫キャリア教育合同研修会（飯田市教職員研修会）

6月12日（水）13:50～16:40 飯田西中会場

《研修内容》

- 1 公開授業（飯田西中のすべての授業）
- 2 グループ協議  
第1回研修会での協議内容をもとに、推進計画を作成した。



○2学期最初の職員会議で、各グループから提案された推進計画を検討する。

### ○第3回小中連携・一貫キャリア教育合同研修会

12月3日（火）13:50～16:40 丸山小会場

《研修内容》

- ・グループ協議
- ・実践報告（成果と課題）

## (1) 授業改善

### ① 学力向上① (基礎基本) グループ

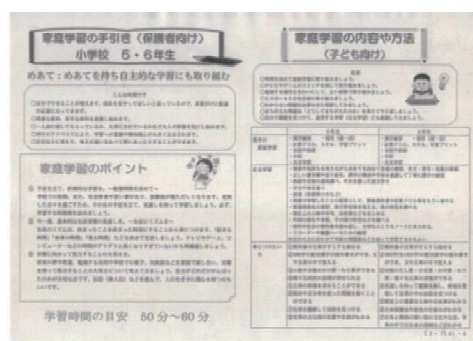
- ・関わり合いのある授業を進めるために、一人で考える時間と、キャッチボールをするための話し方・聞き方、の2点についての約束ごとを決め出していく。
- ・授業の振り返りの場面では、「学習問題やねらいについて」「友だちとかかわって」「次回やりたいことや疑問」の3つの観点で振り返ることを積み重ねていく。
- ・小学校への出前授業 (算数・数学) 11/26 (火) 実施  
大きな円と内接する2つの円の円周を求める授業を行い、子どもたちは、興味をもって取り組んだ。
- ・創造事業交付金 96,000 円を使って、ホワイトボード (小) を購入・配布した。3学期はグループ学習のツールとして使用していく。



「理科の授業では、ホワイトボードを使って図で表しながら意見を出し合うことで、お互いの考えを共有し深めることにつながった」(中)  
「ホワイトボードは、他の子どもが書いたもの書き足していくことができるため、他者理解や、相手を意識した行動ができるようになったと感ずることもある」(小)

### ② 学力向上② (家庭学習、英語・外国語活動等)

- ・小中の授業参観を進める。
- ・小学校の「家庭学習の手引き」を参考に、中学校での手引きを作成し配布する。



## (2) 人間関係づくり

### ① 生活指導グループ

- ・あいさつの徹底。特に、授業の開始と終わりのあいさつを丁寧に行うことを、小中足並みをそろえて行う。
- ・10月の生活向上月間の中で、生徒会役員が中心となってあいさつ運動を展開した。

「あいさつの声が大きくなった」「明るい声で返してくれる生徒が増えた」との感想が生徒から寄せられた。(中)



### ② 特別支援・外国籍児童生徒への支援グループ

- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画について、内容の共有とフォーマットの共用について確認した。
- ・個別の指導計画C表 (年間指導計画) を作成し、小学校でどんな学習をしてきたのかが分かるようにする。また、小学校の特支担当職員に、中学校の特支学級参観を依頼する。
- ・7月に小学校の特別支援学級児童2名が中学校を参観、10月に中学校職員が支援学級入級予定児童や、通常学級に所属する配慮を要する児童の様子を参観した。
- ・昨年度、小学校へ何度も足を運び、6年生の授業参観や個別の支援の方法等について話し合いを重ねて新入生を迎えた。中学校職員が、生徒個々の特性や個別対応の方向について、共通の認識をもって支援・指導することで、現在落ち着いた学級経営がなされている。

1 学期学校生活アンケートから昨年度と比較してみた。

\* 数値は5段階評価の平均値

アンケート項目	昨年度の1年	今年度の1年	増減
学校に来ることが楽しい	4.0	4.3	+0.3
学級は居心地がよい	4.0	4.1	+0.1
学習内容を理解できた	4.0	4.1	+0.1
10項目全て	4.0	4.0	0

となり、学級や学校が肯定的にとらえられている。逆に、平均値が低かった項目は、「家庭学習に意欲的に取り組んだ(-0.2)」、「体験学習が日々の生活に活かされている(-0.3)」などである。また、昨年度の丸小6年生時(2学期)のアンケート結果と比較してみた。一概に比較はできないが「学校は楽しいですか」の設問は、平均値が4.1、「学校の授業が分かりやすいか」は、4.0だった(4段階を5段階に換算して平均値を算出)。

ちなみに学校全体では、10項目中8項目で、昨年度より平均値が上がっている。職員への同項目の調査も0.1上がっている。

調査対象(10項目全て)	H30	R1	増減
全校生徒への調査	3.7	3.9	+0.2
職員への調査	3.3	3.4	+0.1

### ③ ピア・サポート指導研修の実施

- ・8月23日(金)に職員研修として、西中職員が研修をした。
- ・1月16日(木)の新入生体験入学の折、6年生に実施する予定である。

## (3) 9年間の教育課程

### ① 体力向上グループ

- ・H30新体力テスト結果を踏まえ、体力がない原因の一つに、保護者による車の送迎があるのではないかと予想を立て、登校調査を実施した。調査結果を分析し、体力との相関関係を調べ改善策・提案する。
- ・【車での送迎による登校児童生徒数】

学 校		第1回調査 6月24日(月)	第2回調査 7月19日(金)
丸山小	人数	107名/496名	105名/496名
	割合	21.6%	21.2%
飯田西中	人数	46名/212名	30名/207名
	割合	21.7%	14.5%

\*平日だけでなく、土日の部活動での送迎も気になる。保護者の意識も確認していきたい。

### ② 地域連携、コミュニティスクールの進め方

- ・総合的な学習の時間で使用してきたファイル(ポートフォリオ)を、中学校入学時に引き継ぐ。
- ・小中それぞれで実施した各研修内容を一覧にして、共用する。
- ・地域との連携について、地域行事への参加人数を把握するため中学生を対象に調査をした(10月)。





【地域行事への参加率】

設問	地域行事	有効回答数	個人	実行委員	部活動	生徒会	不参加	参加割合
1	風越山麓公園で遊ぼう	197	5		20		172	12.7%
2	春の大平クリーンキャンペーン(中止)	200	63			8	129	35.5%
3	丸山地区市政懇談会	197				5	192	2.5%
4	人形劇フェスタ	195	13		8		174	10.8%
5	羽場の明日を考える作文コンクール応募	196	10				186	5.1%
6	羽場地区・丸山地区文化祭ポスター応募	195	3		16		176	9.7%
7	羽場地区・丸山地区あいさつポスター応募	199	3		7		189	5.0%
8	かざこしふれあいコンサート	198	7		23		168	15.2%
9	飯田市防災訓練	198	19				179	9.6%
10	今宮八幡宮秋季社祭礼	201	104				97	51.7%
11	元山白山神社(権現堂)祭礼	198	68				130	34.3%
12	羽場地区ふれあいスポーツ祭	200	20	15			165	17.5%
13	丸山市民大運動会	198	18	6			174	12.1%
14	ユネスコ活動の街頭募金	198	1			10	187	5.6%
15	風越登山マラソン	196	2		5		189	3.6%
16	秋の大平クリーンキャンペーン	197	55		1	11	130	34.0%
17	羽場地区文化祭(羽場駅伝含む)※参加予定	198	42		8		150	25.3%
18	羽場地区の未来を考える座談会※参加予定	197	4				193	2.0%
19	丸山地区文化祭※参加予定	196	30		17		149	24.0%

今後、小学校でも同様の調査をして、参加状況や行事の持つ意味を確認しつつ、地域連携を深めていきたい。

(4) 組織の構築

- ・小中連携して取り組んでいることを、おたよりにして配布する。
- ・右のように、2学期、3学期にそれぞれ1回、計2回発行して地域回覧し、小中学校と地域連携の具体を発信していく。



4 課題

(1) 授業改善

- ・「授業で大切にすべきこと」を、小中で練り合う時間を設け、統一した授業スタイルが確立できるようにしたい。

(2) 人間関係づくり

- ・引き続き、新入生の情報を、授業参観や支援会議等の情報を通して的確につかみ、入学後の支援がスムーズに進むように連携を図っていく。

(3) 9年間の教育課程

- ・昨年度、「小中一貫のキャリア教育全体イメージ図」を作成した。9年間の中で身につけるべき資質能力がついているか、各学年で確認しながら活用・見直しを図っていくことが必要である。

(4) 組織の構築

- ・6グループの係主任がリーダーシップを発揮して、子どもに還る実践が進むよう、校長・教頭が必要に応じて小中やグループ同士、あるいは地域とつなぐ役割を果たすことが重要である。

## 1 めざす子ども像

ふるさとを愛し、豊かな心と夢に向かってたくましく生きる力をもった子ども  
(ふるさと意識の醸成、他者意識の育成、自己肯定感の育成)

## 2 取組の重点

- (1) 緑ヶ丘中学校区全職員が参加する小中連携会議では、授業公開と小中合同の分科会を行い、互いに学び合い授業改善に活かしていく。
- (2) 6年生対象の中学校体験入学や小中学校の様子を通信で知らせることで、安心して中学校に入学できる準備を行う。
- (3) 小中連携連絡会を中心に、小中9年間を見据えたカリキュラムづくりを進める。
- (4) コミュニティスクールを活用した学校支援、地域貢献の研究を進める

## 3 取組内容と成果（子どもの変容）

### (1) 授業改善

#### ① 小中連携会議での授業公開や講演会を通しての学び合い【小中連携担当者会】

○小中連携担当者 ①4/8 ②2/4

○小中連携連絡会 ①5/7 ②7/8 ③1/21

6部会（学習指導、外国語指導、キャリア教育、特別支援教育、生徒指導、養護教諭）ごとに年間を見通して、共通の願いを検証しながら研究を進めている。

○5/22 第1回緑中学校区小中連携会議 竜丘小学校 17クラス授業公開

○7/31 第2回緑中学校区小中連会会議 松尾自治振興センター

講演『小中連携・一貫教育と飯田コミュニティスクール』 飯田市教育長 代田昭久さん

#### 【参加教職員の感想】

・大変わかりやすく楽しい時間でした。なるほど、カリキュラム・オーバーロードがおこるメカニズムが納得できました。小中連携・一貫教育で子どもたちにつけたい力…真剣に考えました。私は「良いと思うことを選ぶ力」と書きました。どんなに世界がびっくりするような変化をしても、幸せに暮らして欲しいです。皆さんから出された意見も「なるほど」と思いました。  
・新学習指導要領に関して実現したこととして「内容中心からコンピテンシーとして拡張した」というお話を自ら考えながら身近なものとしてお話していただけた。緑ヶ丘中学校区に子どもたちが9年間を通して身につけてほしいことを改めて考えるよい機会となりました。



<成果> 小中連携・一貫教育のねらいを小中職員が共通認識する機会になった。小中連携一貫教育の原点を理解する上で3年に1回程度の割合での開催を進めたい。

#### ② 全国学力・学習状況調査の結果の分析【学習指導部会】

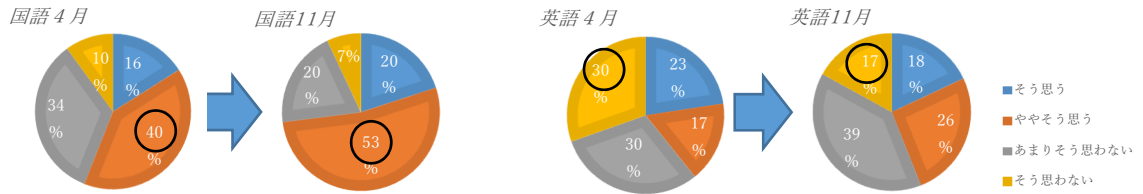
○3小学校の国語、算数の経年の分析結果を活用した中学校の結果の分析

- ・3小学校、中学校ともに算数・数学の正答率が県・全国平均を下回る。
- ・国語、算数・数学ともに県・全国平均とくらべたH28の5年生の結果に比べ中学校の正答率が低くなっている。
- ・小中ともに「国語、算数・数学の勉強が好きですか」の肯定的な割合（当てはまる）が県・全国平均に比べ低い。
- ・「授業で学んだことを、他の学習に生かしていますか」「課題解決学習に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいますか」「自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話しの組み立て等工夫して発表しましたか」の質問に対して肯定的な答え（当てはまる）の割合が、中学校になると低下している。

<成果> 小中の比較、経年変化から中学校での学力状況は伸び悩みがある。これは学習状況調査から主体的な学びの姿（意欲、関心）に起因することがわかる。この結果を基に研究主任を中心に内発性を高める取組を各校で進めた。

例) 緑中「アンケート結果からよりよい授業づくりに向けて」の職員研修会

【学習アンケート結果】「国語・英語の勉強が好きですか」



【参観日授業の生徒の感想(生活記録より)】

参観日でした。4組は英語でした。とっても静かでしたが、反応は良かったです。4組らしい良いところを保護者の方々に見てもらったのかなぁと思います。最後の方で、自由に教室の中を歩いて、友達と英語で会話する時間がありました。そういう時に、全員が自分から積極的に声をかけていて、授業の雰囲気が良く、やりやすいです。母は「すごく楽しそうな授業だね。先生も明るくておもしろくて良いね」と言っていました。英語の提出ノートに質問を書いたら、丁寧に返事をしてくれるので、うれしいです。

＜成果＞ 5月の講演会、連携会議の話し合いを通して各校で研修会等を通して児童・生徒の意欲を高め主体的な学習の展開を進めてきた。「勉強が好きですか」の質問に対して国語では「ややそう思う」の割合が高く、英語では「そう思わない」割合が低くなってきている。徐々に児童・生徒の学習意欲が高まってきている。

○自己肯定感、地域貢献意識等の小中の比較と分析【キャリア教育部会】

＜小中ともに肯定的な答え（当てはまる）の割合が県・全国平均より低い項目＞

(5) 「自分には良いところがあると思いますか」 → 自己肯定感の低さ

＜小中ともに肯定的な答えの割合が県・全国平均より高い項目＞

(16) 「人の役に立つ人間になりたいですか」 → 役立ち感の高さ

(23) 「今、住んでいる地域行事に参加していますか」 → 地域行事への関心が高い

＜小学校では高いが、中学校では低い項目＞

(6) 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」

(24) 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」

＜成果＞ 小中共通の課題である自己肯定感の低さに対して、総合的な学習の時間でのふるさと学習や地域行事への参加を通して自己有用感の高揚を目標にして取り組むことを小中で確認することができた。

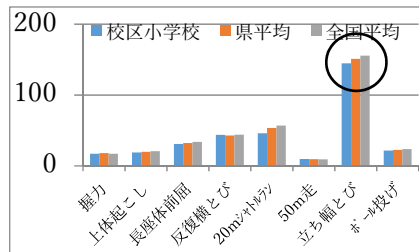
③ 運動能力テスト結果からの研修の実施【学習指導部会】

・昨年度松尾小学校では運動能力テストから走力の課題に対して地区育成会の協力により「小学校体育授業におけるかけっこマニュアル」研修を実施した。本年度も継続して11/25に松尾小学校では「走り方研修会」中学校では陸上部への実技指導を実施した。(11/25)

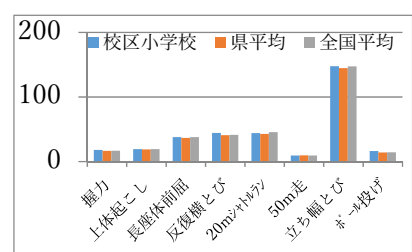


【2019年度運動能力テスト結果】

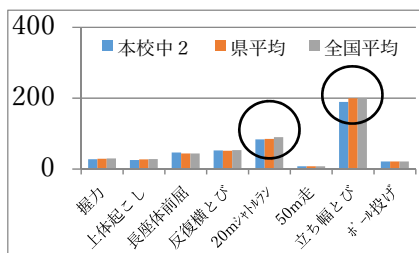
＜小5男＞



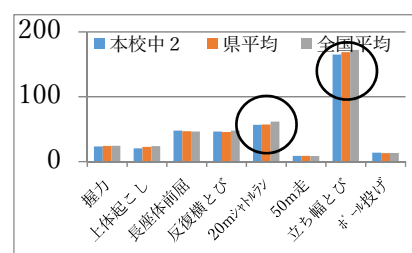
＜小5女＞



＜中2男＞



＜中2女＞



【小学生の感想】

講習会で学んだことは、「走っているときの体勢」です。特にできなかったことは「うでをふりあげる」です。青戸先生が「目の高さまで振り上げる」と教えてくれました。最後に走る時に全部意識すると、早く走れたと思います。今までできなかったことが克服でき、自信ができました。

＜成果＞小5女子を除くと共通の課題はシャトルランと立ち幅跳びである。跳躍力と持久力に課題が見られる。研修会を通して児童は速く走るコツを知り自信を持つことができ、この積み重ねが自己肯定感につながると思われる。

#### ④ 外国語教育の小中の接続、連携【外国語教育部会】

##### ○小中相互の授業参観

【中学校教師の感想】

・リスニング、スピーキング中心で授業が行われるので、中学校でもその利点を生かして、リスニングで考えたり推測したりする工夫を取り入れていかないといけないと感じた。  
・ターゲットセンテンスが中学校2年生の教科書に出てくることを知ることができた。また、アルファベットについても聞いて書く段階にあることも知ったので、小学校で学んだことの上に中学校の学習を積み上げ、より表現する楽しさを感じる生徒を育てられると感じた。

##### ○中学校教師が小学校外国語の授業へ

【小学生の感想】

・今日は外国語で松浦先生と一緒に学びました。とてもハイテンションな先生でした。中学の英語の先生と学べてラッキーでした。なぜかという中学の先生はとても上手に話していて、私が思っているより発音がよかったからです。  
・とても明るく楽しい先生でした。発音がよくてわかりやすかったです。中学校のことも部活や文化祭など少し分かりました。体験入学や入学が少し楽しくなりました。



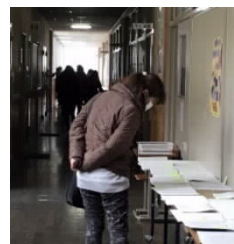
＜成果＞小学校の外国語教育の開始にあたり、小中の共通の指導方法、小中の連携の大切さを共有した上で、小中相互の授業参観や中学校教師の小学校授業参観、授業参加を実施し、質の高い授業の提供を進めることができた。また、児童にとって円滑な中学校への接続につながったことが分かった。中学校英語教師にとって課題意識を持つ機会になり、小中共通して行う Small Talk の位置づけ・内容の研究へとつながってきた。それが、②の英語学習の意欲につながっている。

#### ⑤ 自主的な学びのための家庭学習の見直し【学習指導部会】

##### ○中学校の取組（ベストノート展示会）を参考にした小学校の家庭学習のあり方の研究

【小学校教師の家庭学習の振り返り】

自主学習では、それぞれのテーマに沿った学習を進めてきた。一人一人の興味に沿ったテーマになってきている。また、テストが近づいた時にはテスト勉強のページにするなど工夫して取り組むことができた。中学へ向けての取組にもなっていると考える。



##### ○中学校 10 月授業力向上月間、11 月学力向上月間

【中学生の感想】

・去年、社会の福島先生が僕のノートのすごいところを「マイベストノート展示会」で紹介してくれました。認められてうれしかったです。今年はさらにパワーアップした提出ノートにしています。提出が楽しみです。  
・いつも指定のある分だけだと「やらなくっちゃ」と宿題をしなくてはいけないけど、指定がなければ自分から宿題をやるかどうか経験できます。その方が自分からどんどんやりたくります。是非、自分の意志のみで宿題をしたほうがよいです。



＜成果＞小学校では中学校への円滑な接続のために提出ノートの意識付けを進めている。やらされる家庭学習から児童・生徒の主体的な家庭学習へ教師の意識転換を図る機会となった。中学校の学力向上月間では、「よりよい授業づくりのためのアンケート」「家庭学習についてのアンケート」等を通して、生徒の意見を大切にしながら「授業内容と関連された家庭学習、自主学習を取り入れた家庭学習、個に応じた課題に取り組む家庭学習」の視点から生徒にとって必要感がある家庭学習のあり方のアイデアを出し合うことができた。

### ① 不登校児童生徒への支援【生徒指導部会】

- 主任児童委員、民生委員との定期的な懇談会による情報の交換により学校、地域それぞれの支援の方向の確認
- 小中連絡会による不登校児童の情報交換

#### 【主任児童委員さんの意見】

小中ともに不登校の子どもに対して細かな面を配慮しながら対応している。家庭の複雑な実状のもと子どもたちが苦しんでいる。家庭の問題が大きい。大人たちが変わることが、家庭が変わることが必要だが難しい現状がある。地域でできることを少しずつ積み上げていくことが大切と考える。

### ② 特別支援学級の児童生徒の支援計画の共有と交流【特別支援教育部会】

- 小グループで15分解決法を用いて、1学期を終えて配慮を必要とする児童生徒への支援への課題と実践の共有
- 特支連絡会や特支4校交流会実施により小学校から中学校への円滑な接続
  - 7/9 松尾小にて児童生徒による特支4校交流会
  - 8/30 特別支援小中連絡会
  - 10/30 緑中にて6年生児童・保護者の特支学級授業参観



#### 【保護者の感想】

- ・大勢の場所が苦手で、学校へなかなか通えなかったが、ようやく小学校の特使の暮らすに通えるようになってきたところです。中学校の特支の授業が、こんなに少人数で、これなら落ち着いて過ごせる場所があると分かって来て良かったです。
- ・一人一人のペースに合わせて学習が行われていることが分かって良かったです。

2月中旬 給食・学活・清掃体験 中学特別支援入級予定の児童と保護者との個別懇談  
**<成果>**交流会や授業参観、懇談会が中学校進学に際して、保護者や子どもの不安の解消につながっている。

### ③ 小学生と中学生、教師と教師、学校と家庭・地域をつなぐ

- 情報発信…図書館通信「みどりのなかま」、連携・一貫便り「小学校は今」「つなぐ」、地域通信「丘の子」「下久堅の宝」「頑張れ！緑中」
- 6年生を中学校につなぐ取組
  - 5/27 小中連絡会① 9/28 緑樹祭参観 11/29 来入生体験入学 11/30 新入生制服採寸
  - 1/27 小中連絡会② 2/22 新入生制服販売
- 図書館でつなぐ取組  
緑中図書委員会が中学校の図書館の本を小学生に紹介

#### 【小学生の感想】

みんなが立ち止まって見ていたし、私も気になる本があってつい読んでしまったほど興味を持ちました。見やすい字、きれいですぐに目につきました。中学校に向けて勉強に力を入れたいです。私は本の紹介のおかげで中学校が楽しみです。



**<成果>**児童会・委員会が連携した活動が児童の中学校進学への意欲を高めることにつながった。今後も継続していきたい。

### ④ 4校の児童会・生徒会が共通している大切にしている「あいさつ」の活動

- 小学校の児童会あいさつ運動、中学校の「全校で語る会 ～あいさつについて～」

#### 【保護者の声】

すれ違うほとんどの子が穏やかな挨拶をしてくれました。中にははきはきと挨拶をするのは苦手な子もいると思うので、声は小さくても心がこもっていたら良いと思います。

#### 【中学生の声】

- ・挨拶はコミュニケーションの力だと思います。自分から進んで、相手の目を見てしていきたい。
- ・学校の中ではけっこうできるんだけど、登下校の時や休みの時など地域ではあまりできていないので、地域の人ともしっかりできるようにしたい。
- ・先生や地域の人の中には、こっちが挨拶しても返してくれない人がある。みんなができると良い。

**<成果>**児童会・生徒会を通しての共通の「あいさつ」活動が、自分のまわりの人の気持ちを考える他者意識を育むことができた。

(3) 9年間の教育課程

① 小中共通した基本的な学習指導のあり方の確認と指導【学習指導部会】

- 授業の約束「チャイムで挨拶」「机上バッチリ」「聴くときシーン」の発達段階による指導ポイントの確認。
- 日付、学習問題の板書の徹底と見とどけの時間の確保。

② 飯田型キャリア教育の視点で小中連携カリキュラムの作成・修正【キャリア教育部会】

- 飯田型キャリア教育の願う子どもの力の視点から見た各学年の主な活動の決めだしふるさと学習を充実し、系統的にふるさとを誇り、ふるさとのよさを語れる子どもの育成をはかる。

例) 松尾小…ふるさと学習 (6年)

竜丘小…鷲流峡復活プロジェクトメンマづくり (6年)

下久堅小…ひさかた和紙づくり (1,3,5年)

緑ヶ丘中…結い未来プロジェクト(2年)



【小学生「鷲流峡復活プロジェクト」の感想】

・私も竹を切って飯田の風景を守り隊と思いました。プロジェクトに参加して鷲流峡のよさを広げていきたいと思いました。大切な植物をダメにしないことの大切さや、竹でできる工夫をたくさん知ることができました。鷲流峡のことを考えて活動したいと思いました。  
 ・メンマ販売の時は、はじめはとても緊張していました。でも地域の人が優しく接してくれたので、勇気が出ました。販売には笑顔で明るくということが改めて分かりました。

【中学生「結い未来プロジェクト」の感想】

・自分が世界をつくるのに少しでも協力できるように、お金ではなくまず信用してもらえそうな人になりたい。今日来てくれた人は全員、ここで働くことに「プライド」を持っていた。そんな人になりたい。  
 ・今までの飯田は、働く大人の熱意と行動力によって支えられてきたと思うので、今度は僕たちがどんなカタチであれ、飯田を作れるようにしたい。

<成果>地域の課題に向き合う児童生徒の学習は、地域の人の生き方に触れ他者意識と地域の誇りと愛着を感じるふるさと意識の醸成につながっている。さらに地域の課題を主体的に解決しようとする意欲につながっている。

- 中学校のキャリアパスポート「立志の歩み」(案)を参考にしての小学校の学びと中学校の学びをつなげる研究と小学校キャリアパスポートの作成にむけての検討

飯田市立緑ヶ丘中学校 **みどりの時間学習の記録 (立志の歩み)**

年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

私の中学1年生

● 私が強く地域の未来とは「リニア開通する飯田市の未来像」 4月

高遠ふるさと学習を終えて 8月

○高遠を支える人の思いから  
 ○ふるさと学習テーマ:  
 ○ふるさとを支える人から学んだこと

● ふるさと学習を終えて「リニア時代に地域を支えるための私は」 2月

私の中学2年生

◆ 私の将来の夢 4月

○私の夢 \_\_\_\_\_

○夢のために頑張っていること \_\_\_\_\_

◆ 私のチャレンジ(挑戦体験) 8月

○体験事業所 \_\_\_\_\_

○決意 \_\_\_\_\_

○地域を支えている人のインタビューから \_\_\_\_\_

◆ 結い未来プロジェクト 地域を支えている人からの学び 自分へのメッセージ 12月

私の中学3年生

■ 平和と自分の生活を考える 10月

○私の考える平和な地域とは \_\_\_\_\_

○見て、聞いて、触れて考えた平和とは \_\_\_\_\_

■ 私の立志は「自分はこんな人間になりたい」 12月

■ 地域の一員として今の自分にできること 2月

★ 私のキャリア

自己評価	「5」大丈夫できる	「4」よくできる	「3」できる	「2」もうひとがんばり	「1」努力したい
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(4) 組織の構築

① 各校のコミュニティスクールの状況活動把握

- みどコミ (緑ヶ丘中学校コミュニティスクール) コーディネーター会議の定例化
- 松尾・竜丘・下久堅公民館主事、地域コーディネーターによる3小学校コミュニティスクールの学校支援の状況や課題の情報交換をした。

【「みどコミ」地域コーディネーターの意見】

小中ともに学校支援や地域行事参加など地域連携は進んでいる。これからは地域の課題をいろいろな教科学習のどこかにちょっとずつ入れることが大切になる。それが本当の意味の子どもを真ん中においた地域とともにある学校の構築になり、新しい学校指導要領の社会に開かれた教育課程につながると考える。

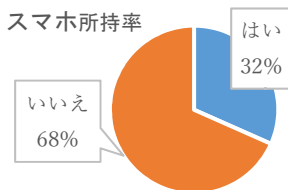
＜成果＞公民館がコーディネーターに位置づいている飯田コミュニティスクールの特長を生かし、月1回の「みどコミコーディネーター会議」は各小学校のCSの情報交換の場にもなっている。機会あるごとに地域課題を教科学習へ位置づけることで、ふるさと意識が高まり子どもの姿を共有した学社協働が進むと考える。

② SNSに関する共通したアンケートの実施【生徒指導部会】

- 各校のSNS、インターネット使用の実態の情報交換
- アンケートの内容の検討と結果をもとにしたPTA活動との連携  
「家庭でできること」の確認

「子どもを守るための緑ヶ丘中ネットルール」の4校の家庭での共通化を目指して

【緑中SNSアンケート・生活アンケート結果】



SNS使用状況

- 平日ネット・ゲーム平均時間 約2時間（最低0最高5h）  
休日ネット・ゲーム平均時間 約2.5時間（最低0最高21h）
- 緑中のネットの約束を知っているか 「はい」30.7% 「いいえ」69.3%
- ネットに関わる悩みや心配事があるか 「ある」7.6% 「いいえ」92.4%
- 会ったことのない人とインターネットでやりとりしている「はい」20.4%  
やりとりをしている人に実際に会うつもりがあるか「はい」28.3%

4 課題

(1) 授業改善

- 全国学力・学習状況調査や学習アンケートを活用し、児童・生徒の声を大切にしながら、小中連携での児童・生徒の学習への意欲を高める授業改善を継続的に進める必要がある。
- 総合的な学習、特活、教科学習での地域との関わりを通して他者意識や自己有用感の高まりが見えた。目的意識をしっかりと持たせながら自己肯定感の醸成に結びつけたい。
- 地域と小中連携して体力向上の研修を進めている。走ることへの自信につながった。体力テストの結果から小中共通の課題を見直し、小中共通した取組を継続に行いたい。
- 具体的な取組を地道に進めることで児童・生徒の学習意欲の向上につながることが分かった。さらに外国語教育において、効果的な小中、小中の連携の必要性を感じる。
- 家庭学習については、今後も児童・生徒の主体性を大切にしながら効果的な方法を検討していく必要がある。

(2) 人間関係づくり

- 特別支援学級での交流や授業参観が中学校への円滑な接続につながっている。継続するとともに、通常学級との関わり等も検討していく必要がある。
- 自治活動である児童会・生徒会での共通の活動（例挨拶、本の紹介）を見つけながら、他者意識の醸成の面で児童・生徒、職員、地域が成果を共有する活動に広げたい。
- 地域をいろいろな面で巻き込みながら、不登校・不適応対応、いじめ対応等を向上するように無理ないように進めていきたい。

(3) 9年間の教育課程

- キャリア教育を柱にした9年間の教育課程を総合的な学習の時間や教科学習でのふるさと意識（愛着、誇り）が高まり、それが地域をよりよくしようという意欲につながっている。キャリアパスポートの有効活用により9年間を見通した系統的な学習の展開を検討していきたい。

(4) 組織の構築

- 各校のコミュニティスクールの連携をすすめながら、緑ヶ丘中学校区としての共通のねらい（願う子どもの姿）、活動内容を検討していく。
- PTA活動に位置づけながら、SNSの危険性を理解しながら正しい使い方を通じて家庭・地域・学校の協働で子育ての課題としてとらえていく。

### 1 めざす子ども像

- 自ら考え、進んで行動できるたくましい子ども
- ふるさとをだいにできる心豊かな子ども

### 2 取組の重点

#### (1) 授業改善

- ・合同職員会や研修会等を実施し、少人数集団のよさを生かした学び合いを推進する。ほかにも、各校の公開を相互に参観し、研修を深める。

#### (2) 人間関係づくり

- ・小学校では、各学年で交流会や合同行事を行い、小学校1年生から継続して仲間作りを進める。
- ・小中学校間では6年生を中心に中学生と交流を行い、中学校進学に備える。

#### (3) 9年間の教育課程

- ・「授業の約束」「身につけよう！6つの行動」を各校で共通して指導する。
- ・校区による外国語教育（小学校）に力を入れる。

#### (4) 組織の構築

- ・第8回ふるさと竜東の集いの開催
- ・竜東中学校区コミュニティースクール連絡協議会（竜東CS連絡会）の開催

### 3 取組内容と成果

#### (1) 授業改善

##### ① 合同職員会

第1回 5 / 22

＜支援指導主事からの話（授業中の子どもの様子を捉え・理解し、どのように授業に位置づけていくか） 学年会 委員会＞

第2回 9 / 4 （千代小学校全クラス公開授業参観、話し合い）

第3回 11 / 20 （まとめ 東原先生をお呼びし竜東中1年算数公開、授業研究会）

#### 成果

(ア)



千代公開、ペア学習



グループ学習



竜東公開、全員タブレットを使って



千代公開、グループ討議



竜東公開、信州大学東原義訓先生ご指導



「本校でもICTを活用した授業研究を進めているがスタディーの一覧と掲示板の使い分けをどのようにしていくかが課題だ。アプリの機能の特性を生かすことが大切である。本時、中学校では掲示板とタブレットでのノートを使っていたが、小学校では一覧と色分けの機能を多く使っている。中学校でノートの機能を多く使うのならば小学校でもその点に力を入れたいと思った。今日は小中接続の観点で授業を見させていただき



りがたかった。」(授業研究、参観者の意見より)

「竜東中学校区に関わらせていただいて7年目になるが、先生方の話を聞いて浸透しているなど思った。人がかわる中で、継続をしてやっていくことは難しい、残すにも努力しなければならないが、当たり前のものになっていてよかった。去年まではこの感覚がなかった。全国でも、タブレットを書いて送ることはやっているが、本校は友達の考えを見ればどうにかなるといことが身についている。これは当たり前ではない。自分の力で友達の考えを見る子は全国でも少ない。」(信州大学東原義訓先生指導より)

「授業者が授業を考えるのに東原先生とテレビ会議というもので連絡を取り合っていた。私は初めてテレビ会議というものを見た。」(会場校校長挨拶より)

「グループの活動で友達が優しく教えてくれてわかりやすい。」「グループ学習が多いから、話し合いやすい。みんなで解決できて楽しい」(中学生)

千代小学校・竜東中学校で公開授業を行ったことで、小中の接続の中でそれぞれの学校が行わなければならないことがはっきりした。また、他校での学びの良さを取り入れ本校で実践することは、小規模複数小学校が中学校に進学するには、経験差(ICTの活用、学習形態等)・学力差を小さくすることが大切だと思った。(ア)

## (2) 人間関係づくり

- ① 合同行事 6年修学旅行 事前学習  
5年社会見学 事前学習  
4年社会見学
- ② 交流会 3年交流会  
2年交流会(7/18)  
1年交流会

ふるさと竜東の集い6年参加、  
中学生との交流(7/21)

成果

### ② 交流会



← 3校で5年社会見学



2年交流会 →

介助なくては学校生活をおくることができないR児の母の声

「学校が違うのに、本当にかかわりが良くてうれしかった。何よりRの喜びを自分の喜びのように喜んでくれたお友だちがたくさんいて本当にうれしかった。」

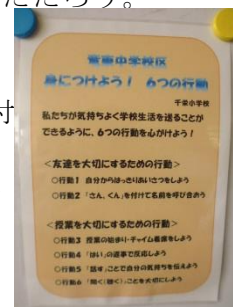
じゃんけん列車での交流の場面、たくさんの子どもがRさんとじゃんけんをしてくれた。Rさんは体が動かないためグーしか出せない。でもそれを知らない子どもたちがたまたまチョキを出し続けてくれたお陰で、なんと、Rさんは最後までじゃんけんの先頭に立ちみごと一番になった。その時、自分のことのように喜び「Rちゃん、一番になって、良かったね。」とにっこり笑ったKさん。その様子を見ていたお母さんの言葉である。もちろん自分の学校ではRさんが大切な一人として生活しているのは知っている。しかし、まだRさんを知らないお友だちに(1年生の交流であるため、Rさんとは初対面)、ましてや今後進学をし、同じ中学校で一緒になるかも知れない子どもたち、より多くの地域の子どもの受け入れられたことはお母さんにとって本当に喜びであっただろう。

(ア)

## (3) 9年間の教育課程

約束事→

- ①各校で「授業の約束」「身につけよう！6つの行動」の教室掲示と意識付け。「身につけよう！6つの行動」を月曆に入れ充実を図る。
- ②昨年度仕上げた9年間のカリキュラム、道徳、外国語活動・英語の実践とキャリア教育のカリキュラムの作成。
- ③外国語活動・英語の連学年体制の学習。3小学校の外国語活動・英語指導の統一。小学校共通の指導案をもとに、小学校3校を兼務のALTが中心となり、学習内容を統一した指導を行っている。手作り教材も3校とも同様に作



成し、中学校へ進学した時、英語学習が同じ土台からスタートできるように力を付けている。



↑ 小学校3校共通の外国語活動・英語指導

## 成果

「繰り返し練習しているうちになんだか英語が話せるようになってうれしい。」「エイムズ先生が楽しく声をかけてくれるから、だんだん慣れてきた。」(児童の感想)

子どもたちもゲームを繰り返す中で、上達することを実感している。来年度学習指導要領本格実施に備え、次年度の教科書の進度を考慮した連学年年間計画を実践していることで、次年度への移行もスムーズに行うことができる。(ア)

④ ICTを使った学習指導。支援指導主事の指導や情報交換・授業参観をしながら、より効果的なICTの学習法を実践。



↑ 各校でタブレットやデジタル教科書、スタディーノート等を使った授業の日常化  
成果

上記(1) 授業改善①合同職員会参照

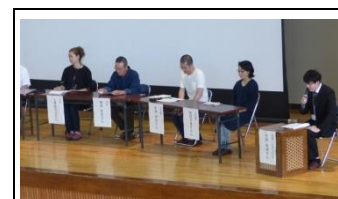
各校でICTを活用した授業実践を日常的に行えるようになっている。(ア)

## (4) 組織の構築

### ①第8回 ふるさと竜東の集い(7/21)

竜東中学校区の住民(下記参加者)が一堂に会し、互いが立場を理解し、これからの地域を語り合う活動を通し、地域の発展に寄与できる関係づくりと貢献できる児童生徒の育成を目的とする集い。

- ・参加者 小学校6年生、中学生、職員、保護者、地域住民、中学校同窓生、新成人、飯田市職員、竜東CS連絡会委員
- ・内容 Iターン、Uターンの住民等6名によるパネルディスカッション。パネルディスカッションから地域の良さ、これから自らできること・願うこと等を分散会に分かれ話し合う。



パネルディスカッション



分散会

## 成果

「Uターンの皆さんの話を聞いて、ふるさとの良さを感じることができたのではないだろうか。」「子どもたちのふるさとに働きかけたいという意欲を感じた。実現すると嬉しい。」(参加者からの声)、  
「6年生と一緒に地域について考えることができ良かった。小学生も中学生になったら、集いを続けていってほしい。」(中学生)

中学生が主体となって参加者と地域のについて考える貴重な機会である。

(イ) 課題を参照

## ②ふるさと竜東夢学校（10 / 3～4）

他校の友だちと地域の家庭に民泊し、農業体験・自然体験することでコミュニケーション能力、自立心、感謝の気持ち、地域のよさの発見・誇り・自信も持つことができる子どもの育成。 ・参加者 小学校3校5・6年生

成果

民泊のアンケート

① 同じ班の他校の人としっかり話し、交流できましたか。

はい（44人）、もっと話せば良かった（4人）

② 農家の方としっかり話し、交流できましたか。

はい（45人）、もっと話せば良かった（3人）

③ 5年生は来年の夢学校が楽しみですか。

はい（22人）、そうは思わない（1人）

④ 6年生はこの活動が中学校でも役立つと思いますか。

はい（27人）、そうは思わない（1人）

⑤ やって良かったと思うのは次のどれに当てはまりますか。

農業体験や作業体験（26人）、同宿した仲間との交流（23人）

農家の方との交流（27人）、食事の時間やお茶の時間（16人）

⑥ 感想

「先生、私初めて親友ができた。心のことが何でも話せるようになった。」

5年女子が少し高揚し満面の笑みで話してくれた。寝食を共にすることで心の交流ができた。大きくなると少人数なので人間関係が固定化しやすく、問題が起こると引きずりやすくなり、問題が大きくなると解決が難しくなる。多くの友だちと関わる中で多様な価値を認め、小学生のうちに関係を深める大切な場になっている。（ア）

③推進委員会 5 / 20、6 / 3、7 / 9、10 / 15、11 / 11、1 / 14

(ウ) 回数を減らす。

④竜東中学校区コミュニティースクール連絡会 5 / 20、7 / 9、11 / 11 (ア)

## 4 課題

### (2) 人間関係づくり

①合同行事・交流会・ふるさと竜東の集い・中学生との交流は、中学校入学後スムーズな関係ができ中1ギャップ解消に向け効果がある。龍江小学校から来る児童は人数が大変少ないため交流ができていないこともあり、不安で入学する生徒が少なくない。今後龍江小学校の児童がどのように関わっていくか、考えていく。

②人間関係づくりにおいて、合同行事・交流会・ふるさと竜東の集い・中学生との交流は欠かせない。今後より進めたい事業ではあるが、バスの制限があるため、難しい。そこで今年度中に来年度のバスの利用を工夫し、同一日に複数交流を行えるよう、来年度に向けて計画している。また、今後遠隔で交流ができるようなシステムをお願いしたい。

③ふるさと竜東の集いは地域を考える良い機会ではあるが、形骸化が見られる。今後、子どもたちが主体的に地域へ働きかける会になるよう考えたい。そのためにも小学校では地域を知る学習、中学校では地域の一員として何ができるか考えられる学習を考える必要があるかと思われる。竜東の集いに地域の皆さんに提案できる会にしたい。

④本年度は事業に入っていなかったが、竜東中学校での不登校の数が増加傾向にあるため、中学校区として考えていく必要があると思われる。

### (3) 9年間の教育課程

①本中学校区小学校外国語活動においては、毎時間授業の指導案をCDにまとめ、手作り教材を同一にして指導することで、中学校へ進学したとき、一定の英語力がどの児童も同じようにフリートークができる状態である。来年度より教科書を使うので整備を進める。

### (4) 組織の構築

①小中一貫から一歩進め、保育園との連携も考えていきたい。



## 1 めざす子ども像

ふるさと竜峡を愛し、自ら考え、たくましく生きる子ども  
～ ふれ合い つながり 織りなす 子ども達 ～

## 2 取り組みの重点

### (1) 「授業改善」学力・体力の向上

- ①小・中の職員が主体的・対話的で深い学びの視点からお互いの授業を見合う。
- ②全国学力学習状況調査を分析し、対応策を検討する。
- ③新体力テストを分析し、対応策を検討する。
- ④「見とどけ対話」の充実と「9年間を通じた家庭学習」のあり方の検討

### (2) 人間関係づくりと中一ギャップへの対応

- ①お互いの学校の子どもの情報交換や合同授業の企画
- ②学習規律（身につけよう6つの行動）を徹底し、身につける。
- ③特別な支援を要する子ども達の情報共有と支援方法の連携



### (3) 9年間の教育課程

- ①総合的な学習の時間とキャリア教育の小中一貫カリキュラムの実施と修正
- ②竜峡地区の人・もの・ことを生かした英語学習のアイデアと実践

### (4) 組織の構築

- ①竜峡中学校区のコミュニティースクールの組織作り試行

## 3 取組内容

### (1) 授業改善

- ①小・中の職員が、主体的・対話的で深い学びの視点からお互いの授業を見合う。【小中合同研修会】

○6月19日 三穂小学校、11月20日竜峡中学校の授業公開と授業研究会（合同教科会）

どちらの授業公開も、国語、算数・数学、社会、理科、英語、体育、特別支援、と多くの教科の授業を公開し、小学校では「振り返り対話」の実践、中学校では「単元デザイン」を提案した。参加した職員からは、「小学校ではつける力をはっきりさせ、それに対する振り返りを行っていた。中学校でも実践していきたい。」「中学校の単元全体を見通した授業づくりや教師の専門性に驚いた。小学校でも単元や学年のつながりを意識した授業づくりをしていきたい。」など、大変刺激になり、明日からの授業をよりよいものにしようという気持ちになったという感想が聞かれた。

- ②全国学力学習状況調査の分析と対応策の検討 【教務主任部会】

<課題> 中学校質問紙（32）「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」について「当てはまる」と答えた生徒の割合は23.4%（県26.3% 全国28.3%）となっており、竜峡中学校区の子ども達は、全体の場で話すことに抵抗があり、話し合いを通して学習していくことに苦手意識を持っている子が多い傾向があることがわかった。

<手だて> ①目的を明確にしながら、小さな集団で話し合い練り上げる活動を様々な場面で組む。②普段の授業の中にグループでの話し合いの場を日常的に設ける。③小学校でも中学校でも日常生活の中に小グループで考えを出し合う機会を作る。

<結果>

最近の授業アンケートより

中学校：「話すことで自分の考えを伝えている」について「できた」30.6%。

小学校：「授業中、進んで自分の考えを書いたり発言したりしている」について「できている」85%となっており、少人数のグループの中で、自分の考えを伝え合うことを繰り返して行く中で、自分の考えを友達と伝え合うことへの抵抗感が薄れつつある。

### ③新体力テストの分析と対応策の検討 【体育委員会】

○平成30年度の新体力テストの結果から見えた課題から、小学校1年生から中学校3年生を見通したどこか一つの分野のハンドブックを作成する。

<課題>新体力テストの結果からは、竜峡中学校区共通の課題は見てこなかったが、運動に対する意識の二極化はわずかではあるが見られた。そこで、運動に苦手意識をもつ子どもにも、運動することが「楽しい」「おもしろい」という体験を多くさせ、その結果として体力の向上を図りたいと考えた。

<手だて>楽しさやおもしろさを感じられる授業改善のためにハンドブックを作成した。運動に苦手意識のある子ども達も、楽しみながら投げる力や走力を伸ばせるフィルダーベースボール（高学年用）と、タグラグビー（低学年の鬼遊び～中学校フラッグフットボールまでつながるもの）を扱った。

<結果>児童は楽しみながら、ボールを投げたり思い切り走ったりする体育の学習ができた。この学習経験によって、子どもたちは、運動の楽しさを味わうとともに、投げる技術の向上につながった。

運動に苦手意識を持っている子どものフィルダーベースボール学習後の感想（5年）

- ・野球よりもルールが簡単だったし、止まっているボールを自分が好きなタイミングで打つことができ、遠くまで打つと、ホームベースを通り越して、走り続けることができおもしろかった。
- ・守備で何回もボールをなげるうちに投げ方のコツがわかって、遠くまで投げられるようになった。

### ④「見とどけ対話」の充実と「9年間を通した家庭学習」のあり方の検討 【学力向上委員会】

○授業を見合い、見とどけ対話のあり方を検討

6月18日 龍江小学校 6月19日 三穂小学校 7月16日

川路小学校で、公開授業を行い、子ども達に確かな学力を付けるための見とどけ対話はどうあったらよいかを考え合う。

<課題>①振り返りがどの学校でもしっかりと行われるようにしたい。②見とどけ対話が、児童生徒に確かな学力をつけるためのものなるようにしたい。

<手だて>①1時間の授業のめあて（学習課題）をはっきりさせる。②見とどけの場面で「どのようにふり返り」「何について話すか」を明確にする。③発達段階に応じて振り返り（分かったことを言語化すること）の方法を工夫する。④どの授業でも共通して「見とどけ対話」の時間を位置づける。

<結果>

龍江小学校の2年生は、「ひきざんの答えのたしかめの方法を考えよう」というはっきりとしためあてをもって授業に臨んだ。見とどけの場面で、子ども達はめあてに対しての振り返りを行い「ひきざんの答えのたしかめは、ひく数と答えをたして、ひかれる数になるとOKです。」と本時学習してわかったことをしっかりと伝えあい確認することができた。

川路小学校の2年生は、担任が「では、なるおも。」と言うと、自然と授業の振り返り活動に入っていた。「なるおも」とは「なるほどとおもったこと」という振り返りの観点を示したものである。子ども達は、友達の読みの工夫について「ほっぺに手をあてて読む工夫をしていて、スイミーが困った様子が伝わってきて、なるほどと思いました。」というように、振り返ることができた。

このような姿から、見とどけの時間が竜峡中学校区全体で大事にされるようになり、どの学校のどの授業でも行われるようになってきていて、子ども達は、「今日自分ができるようになったこと＝ついた力」をそれぞれの発達段階にあった方法で言語化することで、確認したり実感したりしながら学習できるようになってきていることがわかる。これが、学力の伸びにつながっていることを期待している。

○「9年間の家庭学習」のあり方について

今後、生徒児童が家庭学習に取り組むにあたり、以下の②点を確認。

- ①小学校の自主学習開始は、4年次後半～5年次。
- ②発達段階に応じて、家庭の協力を依頼する。
  - ・9年間の家庭学習の手引き（仮）を作成



## (2) 人間関係づくりと中一ギャップへの対応

<課題>①3つの小学校から1つの中学校に入学するため、不安に思っている子が多い。

②中学校に行ってから、人間関係で悩んだり、不適応を起こしたりする子がいる。

<手だて>

### ①お互いの学校の子どもの情報交換や合同授業の企画

ア 合同学年会で、お互いの学校の子どもの情報交換を行う。

イ 3・4年生の社会見学を3校合同で行う。

ウ 5年生の合同臨海学習（三穂小と川路小）を行う。臨海学習に向け合同授業を行う。

エ 中学校の体験入学会を行う。3校の児童が混ざった合同授業を行う。

### ②生活のきまりや学習規律をそろえる 【教務主任部会】

ア 学習規律を3つの小学校と中学校で揃えている

名前の呼び方、返事のしかた、自分から挨拶、時間を守って着席、聞くことを大事にする、自分の考えを話すことで伝える といった基本的な決まりが、小学校も中学校も同じなので、中学校に入ってから戸惑いやもめごとがおこらない。

### ③中学校進学に向けての年間計画の作成と、教育支援計画の形式の見直し 【特別支援教育推進委員会】

今年度は、特別支援関係の年間計画を作成したり、教育支援計画の形式を見直したりして、小中が同一歩調で、中学校入学への準備を進められるようにする。また、昨年度に引き続き、継続した指導・支援ができるように小中で情報共有を丁寧に行う。

ア 中学校に向けての特別支援関係（情報交換会 授業参観等）の年間計画を作成し、入学までの流れを小学校も把握できるようにする。

イ 小学校の特別支援学級在籍児童を中心に、中学校の職員と保護者との面談や中学校の授業参観を複数回実施。

ウ 特別支援学級に在籍する児童から枠を広げ、通常学級に在籍しているが、中学校に入学後、不適応を起こす心配のある児童についても、早い時期から細かく情報交換をする。

### ④教育支援主事による学校訪問と6年生の保護者や児童、中学校区職員への通信の発行

ア 教育支援主事が3つの小学校を学校訪問し、全ての学年の授業に入り児童の様子を把握。

イ 6年生の保護者や児童、小学校の職員向けに中学校の様子が細かくわかる通信の発行。

<結果>

中学校の授業参観後には、中学校での生活に不安を持っていた児童たちから「中学生になったKさんが明るく勉強していたし、中学校の先生は元気で良い感じだった。」「特別支援学級は、中学校に行っても安心できる居場所になりそうだ。」「中学校の勉強は難しいと心配だったけど、授業の内容がとてもわかりやすかった。」等の感想が寄せられた。

昨年度、小学校から、特別支援学級在籍の子と通常学級に在籍しているが困り感の強い子ども（不適応を起こす心配のある児童など）について、何名かの名前が上がってきたが、現在、中学校ではほぼ全員が、元気に中学校生活を送ることができている。

小学校の段階から、合同学年会小・中間で子ども達の情報交換をしたり、一緒に行事を行ったりしてきたこと、また、一年かけて小・中で丁寧に広く情報共有を行い、その情報を入学前後に中学校職員全体で情報や意識の共有をしたことなどが、今年度不適応を起こしている生徒が少ない要因の一つであると考えられる。今後も、小学校から中学校へ、子どもたちに継続した支援を行うことができるように、小・中がチームとして、子どもたちの様子についての丁寧な情報共有を行っていくことが大切だと感じている。

## (3) 9年間の教育課程

### ①総合的な学習の時間とキャリア教育の小中一貫のカリキュラム作成

【総合的な学習・キャリア教育のカリキュラム作成委員会】

本来ならば、昨年度までに作成され、今年度はそのカリキュラムに従って実際に総合的な学習の時間やキャリア教育を進めていく予定であったが、作成が遅れたため、本年度きちんとした形にする。

<課題>①総合的な学習の時間とキャリア教育の小中一貫カリキュラムが細かすぎて使いにくい。

②総合的な学習の時間の「めざす子どもの姿」が学校ごとばらばらしている。

③それぞれの学校がどんな実践をしているのか分からないので、全体図が作成しにくい。

<手だて>

- ①. キャリア教育イメージ図の再編  
学校区の先生方が実践しやすいように、委員会内で再検討し見やすいものを作成。
- ② .総合的な学習（生活科）9か年カリキュラムの「めざす子どもの姿」を揃える。
- ③ 3小学校と中学校の総合的な学習やキャリア教育の実践を発表し合い、共通理解をする。

<結果>

見やすく使いやすいキャリア教育のイメージ図ができた。  
実践発表会を行うことで、竜峡中学校区で行われている総合的な学習の時間の様子が分かり始めた。

#### ②外国語活動の小中一貫カリキュラム 【外国語教育カリキュラム委員会】

今年度から立ち上がった委員会である。今年度は、小学校のどの単元のどんな活動が中学校の学習にどうつながっていくのかをお互いが理解し合う。

<課題>

- ・小学校、中学校ともにそれぞれの学校がどんな英語の学習をしているのか分からない状態。
- ・小学校での英語嫌いをなくし、「英語は楽しい」という気持ちを、中学校の授業へどうつなぐか。

<手だて>

- ①中学校の英語担当教諭による3小学校の英語活動の授業参観
- ②小学校で扱われる単元のテーマを中学校の Small Talk で用いる
- ③教材の連携をとり、言語活動でつなぐことで、英語力の伸長をはかる
- ④小中で扱われる同一題材を分析し、地域とつなぐ



<結果>

中学校の英語科の教諭が中心となり、お互いの授業を参観しながら、課題を解決するための手だてを探っている。

#### (4) 組織の構築

##### 【教頭部会】

将来的な「竜峡中学校区コミュニティースクール」の発足を考え、どうやったら、今あるものを使いながら、それぞれの小学校も含んだ組織ができるのかを考えあう。

本年度は、竜峡中学校の学校運営協議会に、小学校の校長が参加するという形で第1歩を歩み始めた。

## 4 課題

### (1) 授業改善

- ① 児童生徒の学力の向上に繋がるような、見とどけの場面での効果的な対話のあり方を、中学校区全体で探っていく必要がある。
- ② 家庭学習の重点の学校間の共通認識を図り、より効果的な9年間の家庭学習のあり方を検討していく。(9か年の学習の手引きの検討と修正を続けていく)

### (2) 人間関係づくり

3つの小学校の支援計画書を統一した形式にしていくことで、中学校への継続的な支援がしやすくなるのではないかと考え、形式を考えている。小学校でも中学校でも子ども達のよき支援となるような形式を完成させる。

### (3) 9年間の教育課程

- ① 外国語のカリキュラムづくりでは、来年度小学校に新教科書が入り、中学校は現行教科書が来年度で最終年となる。題材と地域をつなげる視点で教科書をつなぐのであれば、来年度以降小中の教科書をチームで分析することが有効だと考えられる。
- ② 総合的な学習の時間では、キャリアパスポートをどうしていくか考えていく必要がある。

### (4) 組織の構築

龍江、川路、三穂とそれぞれ地域の力がしっかりとしている3つの地区をまとめながら、今ある組織や、人材を活かして、子ども達のために、地域の方々も職員も無理なく動ける組織を作っていくこと。

## 1 めざす子ども像

### 『人々に学び、強く豊かに育つ伊賀良・山本の子ども』

- 自立した学習者として育つ → 学習課題を持ち、友と積極的に関わって「学ぶ力」を高めていく児童生徒
- 市民社会の一員として育つ → 伊賀良・山本の「ひと・こと・もの」と積極的にかかわって学び、地域とともに生きていく児童生徒
- 夢・志に向かって育つ → 将来の夢と志を抱き、基本的な生活習慣を大切に生き生きとした日常生活を過ごす児童生徒

## 2 取組の重点

「充実期」初年度として、「探索期」「深耕期」8年間の総括を受け、

- ・ 今一度原点に戻って小中連携・一貫教育の目指すところを校区全職員で共有する
- ・ その上に立って、各委員会、部会の取組を見直し、推進する
- ・ 具体的な子どもの変容に着目し、数値やエピソードで記録していく

これらを全体の方向として、本年度の取組をスタートした。

### (1) 授業改善

- ① 「旭ヶ丘中学校区学習スタイル（課題解決学習としての授業の進め方モデル・授業の約束事・授業と連動した家庭学習）」の確かな実践
- ② 児童生徒同士が主体的に学び合う授業づくり
- ③ ICT教育の推進による、わかりやすく学びやすい環境づくり

### (2) 人間関係づくり

- ① 12年間（幼保小中）の人間関係づくりにかかわって「旭ヶ丘中学校区生活スタンダード」の確かな実践と評価によるスタンダードの見直し。

### 9年間の教育課程

- ① 旭ヶ丘中学校区連携・一貫教育「国語」「算数・数学」カリキュラムの拡充
- ② 外国語・外国語活動の小中学校間の学習内容の調整
- ③ 「ふるさと学習」「キャリア教育」の小中一貫カリキュラム

### (4) 組織の構築

- ① 幼保小連携の具体的な方策
- ② 家庭支援のあり方
- ③ 旭ヶ丘中学校コミュニティースクールの研究

## 3 取組内容と成果（子どもの変容）

### (1) 授業改善

#### ① 3校職員の意識共有

- ・ 第1回旭ヶ丘中学校区3校職員研修会（4月16日）にて近藤一彦 飯田市教育支援指導主事を講師に、旭ヶ丘中学校区学習スタイルについて共通理解を持ち、新年度各学級で指導、家庭配布。研修では、校区における小中連携・一貫教育の進捗状況と今年度の全体方向（上記）を全職員で共有した。

- ・ 第2回旭ヶ丘中学校区3校職員研修会（7月31日）にて小林正佳先生を講師に、「飯田市小中連携・一貫教育の原点と旭ヶ丘中学校区の取組への期待」と題する講演から、「授業交流」を核に従来の小中それぞれの授業を越える「新しい授業者」の創出、資源を分散せず「授業改善」に集中した取組が重要であることを学んだ。

#### ② それを自分たちの言葉として伝え実践

- ・ 「授業の約束」の見直し…3校全体の検討を踏まえ、「学習スタイル」の内容を見直し、「約束」として守ることと、「目指す授業」の姿として努力することを分け、年度初めに担任が子どもの発達段階に応じて語り、実践している。

#### ③ 小中間の「授業観」の共有に向けて～子どもの課題は教師の課題～

- ・ 第1回研修会で近藤主事からは、「学習スタイル」は学習者（子ども）の課題であると同時に授





業者（大人）の課題であるとして、「聴く」を例に、「授業者のしゃべり過ぎは、子どもにとっての聞きづらさを引き起こし、学びが深まらない（子ども同士のつながりを切ってしまう）」など、年度初めに教師が共通して持つべき課題を確認。また、過去3年間のまとめから、小中間の成果とともに「授業スタイル」＝「授業観」の違いが指摘され、「子ども観」を共有し学び合いをステップアップしていくことの重要性が示唆された。

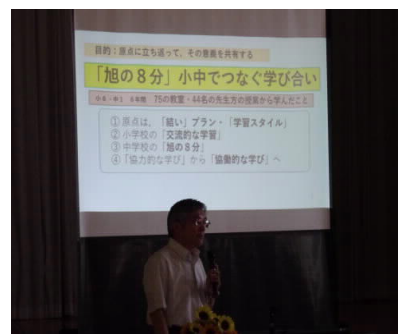


#### ④ 基盤となる「子ども観」を学ぶ

- ・「授業観」の基盤となる「子ども観」を授業を通して学ぶため、東京学芸大学 平野朝久 特任教授を指導者とする職員研修を年2回（5月17日、11月19日）、東京学芸大生受入（9月4日）を実施。生活総合科の授業研究と全クラス公開を通じて、「はじめに子どもありき」の子ども観、「子どもは本来能動的な学習者である」との学習者観を、実際の授業に生かすための職員研修を実施。

#### ⑤ 「旭の8分」小中をつなぐ学び合い

- ・職員からの要望を受け、第2回旭ヶ丘中学校区3校職員研修会（7月31日）にて近藤主事から、小中それぞれで「学び合い」がどのような具体の姿で行われているか、各校の実践例が紹介され、全体会で共有。すでに小学校での「ペア・グループ学習」、中学校での「旭の8分」と、それぞれ校内の授業スタイルは共通化されている。今後はさらに「協力的な学び」から「協働的な学び」へと進化させていくため、小中で一貫・継続した指導（①目標達成の意識を高める②チーム意識を高める③課題の明確化と具体的な自己評価④ジャンプのある課題へのチャレンジ⑤授業者の見取った具体的な姿での評価）が求められている。
- ・第3回旭ヶ丘中学校区3校職員研修会（11月11日）では、山本小全クラス公開授業参観、意見交換、各委員会部会のまとめを行った。
- ・お互いの授業の良さを学び合うために、板書指導案や信州型ユニバーサルデザイン 2.0に基づくチェックシートの活用、研究主任が招集するミニ研究会など、授業を気軽に公開し合えるよう工夫している。



#### ⑥ ICTを生かした授業の実践 ・公開授業（音楽）、校内ICT研修（7月31日）

##### 【旭ヶ丘中学校区小中連携・一貫教育推進協議会】

- 6年経ち職員も替わっている中、原点をふり返るといって今年度のテーマはよかった。
- 授業公開、有難かった。日程的には大変だけれど、大事にしたい。

##### 【飯田市教育支援指導主事 近藤一彦先生から】

- 伊賀良小…ほとんどの授業の始めに「ふりかえり」「復習」の時間が取られ、本時の学習内容につながるように意識されている。ペア、グループ(4人)による意見交換がほとんどの時間に行われ、わからないままの児童が出ないようにしている。子どもの反応を見ながらちょっと困っている、戸惑っているようなら短時間でも交流させている。
- 山本小…デジタル教科書を積極的に活用し、問題場面での子どもたちの意味理解がよりよくできるよう工夫されている。グループで考え合うことや考え合った結果を、ホワイトボードに表現することも常時行われている。「旭の8分」を意識したフリーの立ち歩きも取り入れている。
- 旭ヶ丘中…例を用いた解説の場面も、先生の話だけでなく対話やワークを取り入れて、考えさせながら行われている。「今日の問題はむずかしかったので、絶対に学び合いは必要だった」(自己評価カードより)「このクラスは学び合いがよくできるクラスなので、テストの結果で点数が低い人が少なかった。そこに学び合いの成果が現れている」(先生の話)

##### 【職員自己評価】

[そう思う4点 どちらかといえばそう思う3点 どちらかといえばそう思わない2点 そう思わない1点 で点数化]

#### ①学習スタイル（授業の約束）を子どもたちと実行している 3.2

- 姿勢・いすの座り方など、約束の項目をいろいろな場面で子どもたちに意識させることをしている
- 約束が守られている雰囲気の中でこそ学習内容が身につく ○各学校で「学習スタイル」に沿った実践がなされた。さらにより実質的なことが小中でできるとよい。(学習スタイル検討委員会)

#### ②授業では学習課題を明確にしている 3.4

- ③グループ・ペアでの学び合いの時間を確保している 3.3  
 ○どちらも常に心がけ、できるだけ多く取り入れている ○授業での「めりはり」がないと、また取り組むことが明確でないと、子どもたちの意識が持続できないので大切に考えている
- ④ICT機器を利用したわかりやすい環境づくりをしている 3.0  
 ○課題の共有など電子黒板や実物投影機を利用している ○電子黒板、パワーポイントが指導に大変有効である ○直接授業では使っていないが、教材の準備には使っている
- ⑤三校研修会 小林正佳先生・近藤一彦先生の講演会 3.4  
 ○小林先生のお話から、不登校改善と学力向上を願って始まった小中連携の取組がから今日までの経緯を知り、現在子どもの姿で語り合える旭ヶ丘校区各部会の連携を大切にしたいと思いました ○近藤先生の「学び合い」について、小中互いの授業に学び、授業力向上に向けて研修していきたい
- ⑥平野先生の講演会 3.3  
 ○「はじめに子どもありき」と、子どもの動きを中心に据えた授業のあり方を学ぶことができたので、この理念を大切にしたい ○子どもの問いは何か考えるようになった

(2)人間関係づくり

SNSの利用に関する意識啓発・人間関係づくり・特別支援教育について、保育園・小・中3校で連携して取り組む。

① 不登校未然防止は幼保小の連携から

- ・春休み個別指導(3~4月)、幼保からの書類再読(5月)、校園長(市教委)懇談(5月、9月、2月)、旭ヶ丘中学校校区校職員研修会への参加(4月、7月、11月)、保育園参観(7月)、その他随時情報交換。交友関係、本人の特性や就学判断、家庭支援、転出入など、重要な情報が早期に把握できることで、入学直後の不安や不信を防ぎ、不登校の未然防止につなげるよう努力している。
- ・小学校時不登校・不登校傾向にあった旭ヶ丘中1年生の1学期欠席状況について、個々のケースがあるが、小中間の連携が一定の効果を上げていると思われる。

② 3校職員研修会全体会への校区内保育園の参加 (山本保育園・さくら保育園)

- ・今年度は初年度として全体会のみ参加。今後委員会への位置付け等検討していきたい。

③ 生活スタンダードに基づく実践と評価

- ・4月全体会及び生活スタンダード検討委員会を経て、各校「旭ヶ丘中学校生活スタンダード」に基づく生活指導の実施、継続
- ・校区3校共通 SNS アンケートの実施(7月)

【保護者からの評価】

①子どもは喜んで学校に行っている ②授業がわかりやすい楽しい ③先生は親身になってくれる ④家庭学習に進んで取り組んでいる ⑤友だちを大切に仲良く生活している ⑥元気に遊んでいる ⑦食事は好き嫌いなく食べられる ⑧お手伝いができる ⑨気持ちのよい挨拶や返事ができる ⑩学校は気軽に相談できる ⑪学校は健康安全への配慮がある ⑫学校は地域や家庭と連携している ⑬我が家ではノーネットデイに取り組んでいる [(1)同様1~4点で点数化 太字：前年度比で向上が見られるもの]

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
R1	3.5	3.2	3.5	3.3	3.7	3.6	3.1	2.9	3.2	3.4	3.5	3.5	2.2
H30	3.5	3.2	3.5	3.3	3.6	3.5	3.0	2.9	3.1	3.4	3.5	3.5	2.2
H29	3.6	3.2	3.5	3.3	3.6	3.5	3.0	2.9	3.1	3.2	3.4	3.4	2.3

⇒小中連携で取り組んでいる人間関係づくりに関する項目 (○数字太字) の多くに、保護者の肯定的な評価が高くなってきている傾向が見て取れる。

【児童自己評価1】 太字：最も評価が高かったもの

- ①学校に行くのは楽しい ②授業はわかりやすい ③授業に集中・聞く ④自分の意見が言える  
 ⑤友だちは自分の意見を聞いてくれる ⑥授業で個人やグループで調べたり考えたりする時間がある ⑦自分から質問できる  
 ⑧先生は、私が努力したことを認めてくれる・ほめてくれる ⑨宿題をしっかりとやっている ⑩持ち物を準備し忘れ物をしない

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
3.4	3.4	3.3	3.2	3.5	3.6	3.2	3.4	3.5	3.1

【児童自己評価2】 全国学力学習状況調査児童質問紙 [○に続く数字は、4月%⇒11月% / 全国平均]

- ① 当てはまる ② どちらかといえば当てはまる ③ どちらかといえば当てはまらない ④ 当てはまらない
- \*1自分にはよいところがあると思いますか 児童質問紙質問項目(5) ※太字は変容が顕著なもの  
 ①19.0⇒30.2 / 38.8 ②57.1⇒51.2 / 42.4 ③19.0⇒11.6 / 13.4 ④4.8⇒7.0 / 5.3
- \*2将来の夢や目標を持っていますか 児童質問紙質問項目(8)  
 ①52.4⇒62.8 / 65.9 ②26.2⇒32.6 / 17.9 ③16.7⇒2.3 / 9.3 ④4.8⇒2.3 / 6.9
- \*3人の役に立つ人間になりたいと思いますか 児童質問紙質問項目(16)  
 ① 59.5⇒69.8 / 74.7 ②31.0⇒25.6 / 20.5 ③7.1⇒4.6 / 3.4 ④2.4⇒4.6 / 1.3
- \*4今住んでいる地域の行事に参加していますか 児童質問紙質問項目(23)

① 69.0 ⇒51.2 / 37.2    ② 19.0⇒46.5 / 30.8    ③7.1⇒0 / 18.6    ④ 4.8⇒2.3 / 13.4  
⇒子ども自身が自己を肯定的にとらえる傾向が伸びてきた

【職員自己評価】 [ (1) と同様に1～4点で点数化]

①生活スタンダードに基づく生活指導 2.9

○生活スタンダードがあるのでそれに沿って指導が統一できる ○どの学級も共通で、授業の三観点や「学習問題」「学習課題」「まとめ」の視点が黒板に明確に位置付けてきている ○子どもたちが全校の場でも「はい」の返事や返礼、聴く姿勢など、共通のことという意識が育ってきている ○あいさつ・言葉遣いなど、各校での取組がなされた。あいさつを継続して指導し、公民館と協力して標語などの広報活動も検討していく。(生活スタンダード検討委員会)

②SNSに関するアンケート・講演会などの取り組み 2.8

○講演会で学んだゲーム機器・通信機器などの危険性についての情報を学級PTAで保護者と共有できた。○内容はとてもよい。もっと多くの保護者に聞いてもらいたい。保護者の意識が大切！

(3) 9年間の教育課程

【各委員会より】

○ただ書くだけの漢字練習から、ノート指導を経て、自分で考えて楽しく漢字を覚えていった姿。各学校で他の先生にも広めることと、毎日の日記指導が課題。(国語委員会)

○「統一して指導すること」として、中学校で必要な基礎計算力を上げるための「読み上げ計算」「計算を縦に書いていく指導法」など、統一して指導する内容を絞込み、年度初めに先生方に配布し有効であった。来年度は、ノートの取り方、話し合う時間の取り方など。(算数・数学委員会)

【外国語専科より】

○小3～小6の外国語カリキュラムを作成し、伊賀良、山本両小学校で試行した。子どもの育ちにはクラス差個人差があるが、各学年の単元配列の変更点を専科が把握して、共通カリキュラムで授業を進めることができた。小6の3学期後半は両校共通で英語の自己紹介カードを作成し、中学校入学後の英語の授業に接続するようにしている。

【ふるさと学習・キャリア教育一貫カリキュラムについて】

○今年度実践したことを記録していく形で、来年度に引き継いでいく方向。

(4) 組織の構築

山本保育園・さくら保育園より、三校合同研修会全体会に参加。また3回の校園長会(山本小・山本保育園・さくら保育園)を実施

○三校合同研修会への参加ができ、校区的方向がわかってよかった。ぜひ特別支援などの委員会にも参加したい。校園長会は小1の授業参観と懇談で具体的な情報交換ができ、大変参考になった(山本・さくら保育園)

【保育園より】

保小双方にとって、子どもの育ちや家庭の状況、指導のしかたなど貴重な情報交換ができる有意義な機会となった。

【家庭支援】

○教育支援指導主事宮井光広先生が保護者とつながっていただき有難い。

4 課題

(1) 授業改善

- ・事務局校に加えて3校の教務主任に先生方をパイプ役として先生方の思いを吸い上げ反映させて、各委員会を何とか進めたい。中学校が事務局校になる来年度がチャンスである。

△チャイムと一緒に始められないことがある △グループ、ペアでの学びをまだ十分効果的に活用することができない △まだまだ取り組むべきことがあると感じている △自分自身学び合いの授業のための計画や準備ができていない △講演会の時間が短く少し残念

(2) 人間関係づくり

- ・今年取り組んだ幼保小中の連携を来年度につなげていく
- ・子どもたち自身の意識をもう少し高めていきたい

(3) 9年間の教育課程

- ・両小学校の5・6年の持ち時数(担当の仕方)が違う(伊賀良小は週2コマ全クラス、山本小は週1コマで担任と交互)ので、打合せ等注意を要する。

(4) 組織の構築

- ・中学校区コミュニティースクールの組織をどのように作っていくか
- ・来年度事務局(中学校)をリーダーに、さらに研究していく。

## 1 めざす子ども像

郷土に愛着と誇りを持ち、自己実現を図る鼎の子

## 2 取り組みの重点

### (1) 授業改善

- ① 家庭学習の手引きの加除修正をする。
- ② 小中連携・一貫教育の視点での授業改善をする。

### (2) 人間関係づくり

- ① 児童会・校友会共同の行事(小中合同挨拶運動、JRCボランティア活動)を行う。
- ② 開かれた人間関係についての検証をする。
- ③ 授業中の言葉遣いに絞り学年に応じた工夫を考える。

### (3) 9年間の教育課程

- ① 9年間の評価を意識した道徳の授業づくりをする。
- ② 出前授業により9年間の教育課程を見越し、中1ギャップを少なくする配慮を行う。

### (4) 組織の構築

- ① 年2回の小中連携・一貫教育推進委員会を行う。
- ② 教育相談の必要な児童生徒に対し、引き継ぎや参観、体験を積極的に行う。
- ③ 児童の個別ファイルの引継ぎが円滑にいくよう配慮する。

## 3 取り組み内容と成果

### (1) 授業改善

- ① 夏休みに鼎小中学校教職員を対象に、小中連携・一貫教育授業づくり基礎講習会を実施した。

8月20日 飯田市教育長職務代理者 北澤正光先生を講師にお迎えし、「授業づくりへの提言」と題してご講話をいただいた。教師という職業で、ゆるがせにはいけないことは、①子どもと向き合う時間、②子どもの力が伸びる授業づくり、③分かった、できた、楽しい、が感じられる学校、の3点である。これらのことをもとに、授業をもっとよくする3観点(結いプラン)でねらったことは、最低限子どもたちにこの3つ(ねらい・めりはり・みとどけ)だけは保証することである。また、来るべき未来の予測として、予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い関わり合うために、自らの可能性を発揮できる力を育むために「言葉と体験」を重視してほしい。そのために、子どもを一人にして自分と向き合う場を設けること、子どもの言葉を読み解く教師の力量をつけること、そして今の姿を見切らない、子どもはいつも発展途上、再開したときに会わせる顔が立つように日々子どもと接するという、この3点が重要であるという助言をいただいた。



- ② 小学校音楽専科熊谷典子先生が郡音に向けた歌唱指導を中学校3年生向けに行った(10/28)。また、文化祭(若鮎祭)では、音楽会の講師(9/28)も務めた。

指導を受けた中学のある生徒の感想「先生の指導はおもしろく、楽しかったです。親指を上歯の奥の方に押すように口を開け、ローマ字の子音を母音より強く発音するイメージで歌うとより大きくなったり、発音するイメージで歌うと、より大きくなったり強弱がついて表現できるようになったりするそうです。「あなたへ」も「ほらね」と同様に口を開け、目も開け、言葉をはっきりさせて歌って、良い合唱にしたいです。」

## (2) 人間関係づくり

- ① 児童会・校友会合同の行事を行う。
- ・ 小中合同挨拶運動で年8回、児童会・生徒会役員が中心となって、朝の挨拶やハイタッチを行う活動を行ってきている。
  - ・ JRC委員会の交流活動として、7月4日に独居老人へ送るために絵手紙づくりを行った。第2回は10月10日に各地区公民館の清掃を小中協力して行った。
- ② 道徳では、鼎地区児童の一番の課題である「開かれた人間関係」に関わる価値についての実証を行った。
- ③ すぐに友だちのことをけなしたり、急に奇声をあげたりするなど、言葉遣いに課題のある児童生徒が多いことから、時と場と相手を考えた言葉遣いができるようにした。とりわけ、本年度は授業中の言葉遣いに絞って学年に応じた工夫ができるようにした。
- ④ 9月の小学校参観日の折に、「中学校説明会」ということで、中学校の校長が小学校に出向き6年生保護者を対象に講話を実施した。内容は、今の中学校の様子と、中学入学に向けての心構えについてであった。1月には児童向けに講話を行った。保護者児童に、中学生の様子を伝えながら、進学へ向けての見通しをもってもらい、中1ギャップを少しでも解消することをねらっている。



- ⑤ 小中交流清掃を7月2日に行った。小学生の整美委員が中学校に出向き、中学の清掃を体験させてもらうというものだった。清掃前にまず1分間の「黙想」から気持ちを切り替えて今日の清掃について静かに考える。その後一言も喋らずに清掃を行った。

参加した小学生は、そうした中学生の真剣に清掃に取り組む姿を見て、全員が徹底して無言で行うことの大切さを学ばせていただいた。また、中学1年生に「小学校の頃と違って、どうしてそうやって無言でできるのか」と聞いたところ、「中学に入ると先輩が黙ってやっているから、みんな自然と黙って掃除をするようになった。」と小学校の清掃との違いを教えてくれた。さらに、雑巾のかけ方、ほうきのかけ方などについても細かく教えてもらうことができた。そこで、学校へ戻って振り返りを行い、清掃の仕方についても、無言で行う心構えについても、整美委員がまず中心になって全校がよりよい清掃の姿を目指せるよう活動してきている。

### (3) 9年間の教育課程

- ① 小中学校の全教室黒板に、同色、同形式の「学習問題」「見通し」「学習課題」「まとめ」というマグネット掲示を準備し、日々の授業で活用してきている。
- ② 9月27日(金)、朝～2校時までを使って、6年生が中学校文化祭を見学。開祭セレモニーを見学し、その後展示見学を行った。

静かに集中して見つめる児童たちには、初めて目にする文化祭開祭セレモニーに、これまで作り上げてきた中学生の努力や苦労を感じると同時に、来年度は自分たちがここで中学生として一緒にこの場を迎えるのだという進学への気持ちを新たにできた場面だった。

- ③ 中学の先生方が小学校に出向いて、6年の各クラスで授業を行う出前授業を、今年度は体育と数学で行った。

体育では、小学校担任の困り感や課題と感じている単元のうち2学期はドッジボール単元で投法の支援について、3学期はマット運動単元で行った。中学の先生の指導は、体育専科の専門性を生かし、細かく段階を追って色々な方法を使って支援しており、児童の技能が目に見えて向上した。指導を見学・支援した小学校の先生方にとってとても有意義な研修の場となった。



- ④ 小中PTA合同講演会

11月22日に実施。今年度はおもしろ科学実験工房を小6児童保護者と中3生徒保護者が体験した。内容がとても興味深く、児童生徒も集中して参加していた。

#### (4) 組織の構築

##### ① 小中連携一貫教育推進委員会

第1回 6月12日(水)

活動計画立案

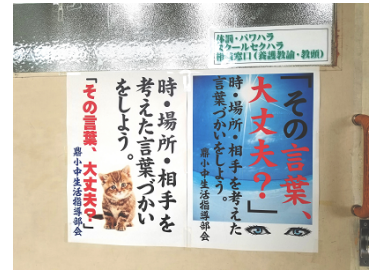
第2回 11月20日(水)

これまでの取り組みの様子の確認と、今後の見通し



##### ② 第1回委員会各部会の概要

- ・ 学力向上・家庭学習（全国学テの分析・対策）…家庭学習の手引き見直し、課題を探った。
  - ・ 道徳…大切にしたい価値を共有し、適切な評価を行った。
  - ・ 体力向上…中学出前授業を2学期、3学期に各1回ずつ実施した。
  - ・ 外国語活動・英語…お互いの授業を見合い、つながりについて検討した。
  - ・ 生徒指導・生活指導…授業中の言葉遣いについて共通に扱った。
  - ・ 特別支援教育…小中の引き継ぎをスムーズに行う、6年生の中学参観を1学期から行った。
  - ・ 児童会・校友会（JRC含む）…年8回の挨拶運動、年2回の合同ボランティアを行った。2回目は今年度から小中合同で各地区の公民館清掃を行った。
- 全体会を有意義なものとするために、事前に小中の各部会代表者が集まって年間の取り組みや成果と課題について、原案を検討する場を設け、全体会が形式的にならず具体的な取り組み内容が確認できた。



#### 4 課題

##### (1) 授業改善

- ・ 夏休みに先輩の講話をお聞きしたり、専門性を生かして直接児童を指導して頂く場面を設定したりすることで、少しずつではあるが自身の授業改善につながってきている。限られた時間の中で難しいが、この方向で少しずつ改善の手立てを模索していきたい。

##### (2) 人間関係づくり

- ・ 小中児童生徒が互いの姿から直接学ぶことはとても有意義と考えている。こうした機会を使ってともに活動するなかで、互いが感じ取る学びを今後も大切にしていきたい。

##### (3) 9年間の教育課程

- ・ 出前授業は特に学ぶものにとって大変有効であるが、回数を増やせば出前に来ていただく中学の先生への負担が大きくなる。今年度のように互いの持ち味で生かせる部分を共有し、短時間で無理なく取り組めるようにしたい。

##### (4) 組織の構築

- ・ 円滑な運営のため、2回の本会の前にリーダーで打合せをする場を持つことが有効と分かった。今後さらに、このリーダー会のより効果的な在り方を工夫していきたい。

1 めざす子ども像

意気と希望と人の和で未来を拓く子

- 「意気」 …自ら考え、行動しようとする子ども
- 「希望」 …学んだふるさとを愛し、未来を拓く子ども
- 「人の和」 …ちがいを受け入れ、共に生きる子ども

この3つの姿を中学校区とし求めていくことで、自分の未来を切り拓き、力強く歩んでいく子どもを育てていきたいと考えている。

2 取組の重点

- (1) 小中連携・一貫教育の目的を「学力向上」と「登校支援（不登校防止）」にしぼる。今年度は「学力向上」と「登校支援（不登校防止）」を支える基盤となる「学級集団」に視点をあて、「集団づくり」についての合同研修会も行っていく。また、目指す子どもの像に向けて、中学校区の3校における教育課題や日々の実践の悩み等を共有し合い、一人一人がどのような取り組みを行っていくのか、検討する機会を設ける。
- (2) 外国語教育及び総合的な学習の時間における9ヵ年の小中一貫カリキュラム案が作成できたため、多くの職員で実践し、加除修正を加えていく。また、これまで体力向上に関わる実践を蓄積してきているため、整理し、体力向上に関わるカリキュラムを作成していく。さらに、家庭学習を含めた学習のてびきや、学び方高陵学校スタンダードを作成していく。
- (3) 公民館と協力して地域・保護者へのさらなる啓発を行い、「めざす姿」に向けた中学校区全体としての共通理解と協力をいっそう得られるように意識の醸成を図る。
- (4) 高陵中学校区コミュニティスクールを立ち上げた（5/9）。今後内容を充実させていく。

3 取組内容と成果

(1) 授業改善

中学校区の三校の教職員が一堂に会し、「子どもとつくる授業」に関する講演を聞いたり、授業実践を見合ったりすることで、「子どもの主体性に支えられた授業」の実現に向けて、共通理解を図り、日々の授業改善に向けて取り組んでいる。

①子どもの主体性に支えられた授業イメージの共有【第1回合同研修会（5/13）】

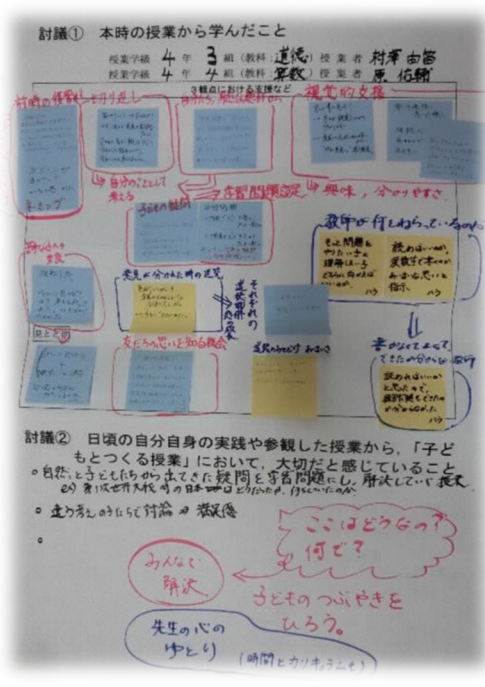
三校の教職員で子どもの主体性に支えられた授業イメージを共有するために、座光寺小学校の大藪勝教頭先生から過去の授業実践をもとに、「子どもでつくる授業」と「子どもとつくる授業」のちがいについて話をしていただいた。教師は子どもと共に味わい考え合う者として、可能性への眼差しをもって子どもを理解し、発見と創造の営みの授業を目指していくことの大切さを教えていただき、自分自身の教育観や授業観を見つめ直すとともに、小中学校の教職員みんなで、子どもとつくる授業観について確認することができた。

②授業参観（今年度：上郷小学校）を通じた意見交換【第2回合同研修会（6/11）】

「子どもとつくる授業」を目指し授業づくりに取り組んだ上郷小学校の全学級の授業を、中学校区の先生方が参観した。また、その後の分散会では、「ねらい」「めりはり」「見とどけ」の三観点における授業者の支援を参考に、参観した先生方が授業や子どもの学ぶ姿から学んだことを付箋に記述し、指導案拡大シートに紹介しながらまとめていった。小中学校の先生方が日々の授業実践の中で、「子どもとつくる授業」において大切に感じている点も付箋に記述し、キーワードをまとめる中で、日々の授業で工夫していることや悩み等を出し合うことを通して、お互いの子どもの見方や子ども観、教育観を磨き合うことができた。



↑上郷小の授業公開の様子



↑意見交換でまとめた指導案拡大シート



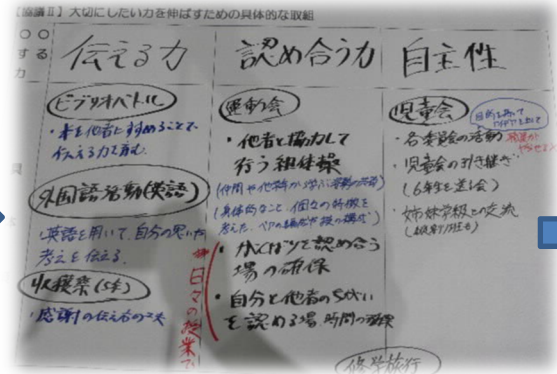
③ 高陵中学校区の児童・生徒の課題から、目指す子ども像に向けて、

各自の2学期の具体的な取組を決め出す取組【第3回合同研修会(8/20)】

第3回の合同研修会では、中学校区の児童・生徒の実態から見えてきている課題について各校の研究主任が発表した。3校とも全国学力・学習状況調査や学校評価アンケート、日頃の授業での子ども様子から、自分の考えを書いたり、話したりといった表現することが苦手であることや、自己肯定感の低下といった共通の課題があることを確認することができた。そして、3校の職員が入り混じったグループに分かれ、高陵中学校区としてめざす子ども像の実現に向けて、共通の課題を改善するために、2学期の授業、および学級経営等でどのような取組を大切にしていけるか、これまでの研修(上郷小授業参観、学級づくり講演会)を参考に、アイデアを出し合いながら、一人一人が2学期の具体的な取組を決め出した。



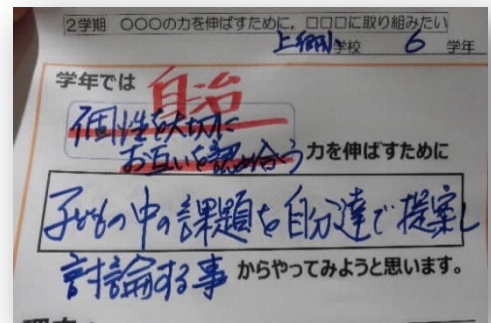
↑ 3校の職員が入り混じったグループで、「中学校区として伸ばしたい力」について意見交換



↑ 2学期取り組む活動の具体をまとめたもの



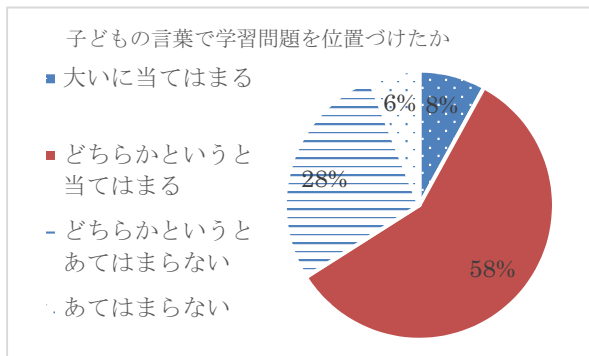
↑ 自分の学校の学年会で2学期取り組む活動の検討



↑ 研修の最後に2学期、自分の授業や学年で取り組むことをまとめたシート

1 2月には2学期に取り組んだ実践について、各校で振り返る時間を確保し、第4回合同研修会の中で、2学期の実践の発表を通して、子どもを主体にした授業のよさを共有することができた。

④ 授業実践アンケート(教師対象)の実施【11月下旬~12月上旬】



「子どもとつくる授業」の実践についてのアンケートでは、左図のように「大いにあてはまる」「どちらかというあてはまる」をあわせると66%となった。まだ全職員への意識の浸透が図られていないので、全職員となるよう取り組むと共に、先生方が「めりはり」の部分をいかに充実させるかが子どもたちの主体性につながるが見えてきたので、学習形態の工夫や学び合い、思考ツールの活用等も学んでいく必要がある。

杉田洋先生による学級づくり講演会

(2) 人間関係づくり

① 学級集団に視点をあてた「集団づくり」についての研修会【7/19】

「学力向上」と「登校支援(不登校防止)」を支える基盤となる「学級集団」に視点をあて、「集団づくり」についての小中合同研修会を行った。

今年度は、夏休みに入る直前の7月19日(金)に、國學院大學人間開発学部教授の杉田洋先生をお呼びして「特活を生かした人づくり、集団づくりー集団の教育力の再構築と活用ー」という演題の講演を聞



いた。誰もが自己開示でき、表現することを楽しめる集団づくりや、学級活動を通して人を育てよりよい集団をつくる指導の実際、自己有用感に裏付けられた自尊感情を育てる集団づくり、さらに褒め、励ます事を大切にせる教師の姿勢など、活力のある学級や学校をつくる上で、どのように児童・生徒を育てていくのがよいのか教えていただくことができた。その中で自分自身の子どもの方や子ども観、教育観を見つめ直す機会にもなった。

【杉田先生の講演を聞いての感想】

- どんな教師でありたいか、どんな風に子どもと関わりたいか、そういった願いが頭から消えてしまっていた自分に気がきました。いかに子どもを動かすか、分かりやすく教えるかばかりが頭の中をいっぱいにしてしまい、大事なことを忘れてしまっていたようです。改めて、自分の指導を振り返る場になりました。  
(上郷小職員)
- 子どもたちのことを信じて任せること。一人一人を大切にしていくこと。今、私はできているかなと改めて考える機会になりました。つつい色々々と指示を出すだけになってしまうことがあります。子どもたちの力を信じ、子どもたちの力でよりよい学級・授業づくりをしていけるよう支えていきたいと思います。  
(座光寺小職員)

② 6年生を中学校につなぐ取組・・・6年生対象の中学校部活動見学【9/2】、高陵祭見学【9/27】、新入生オリエンテーション【10/29】

6年生が中学校生活への不安を解消し、期待や希望を抱き、入学できるように、実際に中学校の授業を受けたり、部活動や文化祭の見学をしたりする場を設けた。毎年行われている高陵祭の見学では、日頃の授業で取り組んだ習字や新聞の展示見学だけでなく、各学年の総合や英語スピーチのステージ発表を見学し、高陵祭や部活動見学、体験授業に参加した6年生の児童は次のような感想をもちました。



↑ 部活動参観の様子



↑ 小6体験授業の様子（技術）

【部活動見学の感想】（座光寺小6年）

廊下ですれ違った中学生は、みんな「こんにちは」とあいさつしてくれて、私はさすがだなと思いました。私は陸上部かバレー部に入ろうと思っています。今日見たバレー部は人が少なかったけど、みんなしっかり声をだしてやっていました。陸上部は、あまり短距離をやっている人がいなくて、ほとんど長距離をやっていたけど、見ていて楽しそうでいいなと思いました。(中略)まだ中学生になるにはあと半年あるけど、今からすごく楽しみになってきました。中学校へ行って部活動を見学できて、すごくよかったです。

【高陵祭見学の感想】（上郷小6年）

私たち小学生は休み時間はすごくみんな元気で色々なことを言っているのに、授業になると静かで意見を言う人があまりいません。でも、中学生は違いました。休憩の時に色々話していてもちゃんと積極的にみんなが発言していました。しかも、男の人、女の人と意見を言う人が傾かないで男女両方とも意見を言っていたので「さすが中学生だな。私たちも見習わないと」と思いました。私は初めて高陵中学校の文化祭を見て、小学生と中学生の違いがわかったし、勉強になりました。

参加した児童の感想には、「中学生になるにはあと半年あるけど、今からすごく楽しみになってきた」といった憧れや希望が書かれており、中学校生活への期待感を抱く機会にすることができた。

③ 配慮を要する子どもをつなぐ取組・・・特別支援学級説明会【8月】、特別支援学級三校交流会【11/12】、来年度入学生徒（特別支援学級）の懇談（希望者）

小学校で特別支援学級に入級している生徒だけでなく、配慮が必要な児童について、特別委員会を組織して、定期的に情報交換を行った。三校交流会は、昨年度までは3回行われていたが、今年度は1回にし、充実した内容を心がけた。また、保護者の方の不安を解消するために、早い時期（2学期始め）に特別支援学級の見学と保護者説明会を実施するとともに、希望者には中学校の職員（特別支援コーディネーター、教頭、校長等）との懇談する時間を設けた。児童、保護者とも中学校生活への見通しをもつ機会になった。

④ 教育支援主事による中学校と6年生をつなぐお便り『高陵』の発行

来年度、高陵中学生となる上郷小、座光寺小の6年生向けに、「中学1年生の今」と題して、学校生活や学習の様子だけでなく、行事や生徒会の様子等について、お便りで紹介している。時には、中学校生活を通して感じていることについて、中学1年生にアンケートをとり、中学生の声を掲載しているため、小学生にとって、中学生がどんなことを感じて学校生活を送っているのか知る機会になっている。

⑤ 不登校児童生徒数の減少に向けての取組

不登校の児童・生徒が自宅以外に学ぶ機会がもてるように、教育支援主事による家庭訪問、児童・

### 高陵

高陵中学校の部活動の様子

学年	人数	部活動	人数	部活動
1	12	サッカー	15	バレーボール
2	18	バスケットボール	20	バレーボール
3	25	サッカー	30	バレーボール
4	30	サッカー	35	バレーボール
5	35	サッカー	40	バレーボール
6	40	サッカー	45	バレーボール
合計	160		180	

高陵中学校では、部活動を通じて、児童の体力・気力の向上を図るとともに、協働能力やコミュニケーション能力の育成に努めています。また、部活動を通じて、児童の個性を伸ばし、自己表現の機会を提供しています。部活動を通じて、児童の社会性を高め、人間性を養うことに努めています。

高陵中学校の部活動は、児童の健康増進と、協働能力の育成に努めています。また、部活動を通じて、児童の個性を伸ばし、自己表現の機会を提供しています。部活動を通じて、児童の社会性を高め、人間性を養うことに努めています。

生徒の個別指導に取り組んでいる。(学校へ登校できた時など、相談室等での個別学習支援)

### (3) 9年間の教育課程

#### ①「授業力向上」委員会

「学習の手引きの改訂」を柱に取り組んだ。家庭学習が充実していくような手引きにしていきたい願いはあったが、中学校側が目指している家庭学習のあり方が明確になっていなかったため、改訂まで至っていない。現在、中学校(2学年)では家庭学習のあり方を検討しているところである。その成果を受け、中学校の家庭学習について考えていく予定。それを受けながら、中学校につながる小学校での家庭学習を検討していきたいと考えている。

#### ②「英語カリキュラム研究」委員会

市教委の塩澤先生にも一緒に参加していただきながら、よりよい連携について考える機会を定期的に設けた。その中で、小学校で取り組んでいる Small Talk の実践を中学校職員が参観し、それを中学の授業に取り入れ始めたり、実際に中学校で取り組んでいる場面を小学校の先生が参観する機会を設けたりして、共通の取り組みを行い始めたところである。また、小学6年生の3学期には、中学校入学して、英語で自己紹介ができるように、同じ題材に取り組み、入学した4月の中学の英語の授業の中で、小学校で考えてきた自己紹介文を生かした授業を構想している。

#### ③「総合カリキュラム研究」委員会

それぞれの学級・学年が取り組んだ総合の題材における展開や、児童・生徒の主体的な取り組みをつくり出す具体的な支援や実際の児童・生徒の姿をA4-1枚にまとめ、昨年度作成した題材一覧とともに参考資料として保存し、この地へ新しく赴任した先生が参考にできるようにした。

#### ④「体力向上」委員会

ベースボール型に焦点を当て、投てき分野における縦のつながりを意識したカリキュラムを作成した。今年度、中学校でベースボール型単元の授業づくりに取り組んだことで、小学校の低・中・高学年において、投てき分野において、どのような力が身に付いてほしいか、系統的に考え、まとめることができた。

#### ⑤「配慮を要する子どもの支援」委員会

小学校で特別支援学級に入級している生徒だけでなく、配慮が必要な児童について、定期的に開催される特別委員会の中で情報交換を行うとともに、交流会や保護者説明会の内容についてつめた。3月までに、個別の教育支援・指導計画の作成と引き継ぎを行っていく予定である。

### (4) 組織の構築

高陵中学校区コミュニティスクールを立ち上げた。公民館と協力して地域・保護者へのさらなる啓発を行っている。地域の運動会に中学生が企画・運営に携わることで、社会に関わっていく力を育てることにつながっている。また、ごみゼロ運動や地域の奉仕活動に参加する中で、地域の方から感謝される経験を通して、自己有用感が高まる機会にもなっている。



## 4 課題

### (1) 授業改善

①「ねらい」「めりはり」「見とどけ」の3観点を大切に授業づくりに取り組んできている。昨年度、「授業中の子どもの『つまずき』や『わからない』を予見し、子どもたちにどう乗り越えさせるか」を構想して授業づくりを行うことが生徒の主体性を伸ばすことにつながることが見えてきた。しかし、今年度その点について、3校で共通認識のもと取り組むことができなかった。

### (2) 人間関係づくり

①配慮を要する子どもの支援については小中連携して取り組んでいるが、学級での人間関係が向上するような取組まではできていない。学級が誰にとっても居心地の良い学級にするための取組を考えていきたい。

### (3) 9年間の教育課程

①特別委員会のテーマが大きく進展があまりみられない委員会もある。来年度はもう少し焦点を絞って取り組むようにしたい。また、今年度、市教委の塩澤教育指導主事に入って頂き、英語カリキュラムについては前進した。来年度も、市教委の教育指導主事の先生に指導していただきながら進めていけるようにしたい。

②キャリア・パスポートのあり方を中学校区として統一して取り組めるようにしたい。

### (4) 組織の構築

①高陵中学校区コミュニティスクールとしてスタートをきったが、地域との連携は充実してきているが、小学校との連携がまだ模索状態である。中学校区コミュニティスクールのため、小学生との関わりを大切に活動も考えていきたい。

②「社会開かれた教育課程」実現のため、学校と家庭と地域がそれぞれの立場でできること、相互に協力し合え、WIN-WIN の関係を築けるよう、コミュニティスクールのコーディネーターを活用していきたい。

## 1 めざす子ども像

「郷土を愛し、社会の一員として、自立した生活ができる子ども」

## 2 取組の重点

### (1) 「授業改善」学力・体力の向上に向けて

- ・上村小でのへき振興全国大会にあわせて、少人数学校における複式学級や遠隔を用いた学習について3校合同の授業研究会を開いて、授業改善を進める。
- ・3校で集合学習を実施して、大人数での学習や運動を行っていく。
- ・「体力（持久力）を高め、意欲をもって運動に取り組む子ども」の育成、および「心も体も健康に自立した子ども」の育成をめざした運動と健康に関わることを3校の専門部会等で連携して取り組む。

### (2) 「人間関係づくり」不登校児童生徒数の減少に向けて

- ・集合学習や合同授業の実施を重ねることで、中一ギャップを防ぎ、不登校生徒減少に向けて取り組んでいく。

### (3) 「9年間の教育課程」めざす子ども像に向けた系統的な教育の取組に向けて

- ・3校合同教科会において、昨年度に続き小中一貫のカリキュラムを作成する（本年度は、国語、算数・数学、図工・美術・技家）。ESDカレンダーも作成している。

### (4) 「組織の構築」飯田コミュニティスクールの充実に向けて

- ・3校の合同学校運営協議会を開き、各校の運営協議会委員に集ってもらい、それぞれのコミュニティスクールについて発表しあっている。
- ・自然災害の多い地域なので防災と安全に関わって、自治振興センターの防災担当者との合同会議を設定し、保小中合同の避難訓練の計画を検討し、実行する。

## 3 取組の実際

### (1) 「授業改善」学力・体力の向上に向けて

#### ①少人数学習における複式学級の研究

上村小は現在3つの複式学級で、和田小も1，2年生が複式学級にあてはまった（複式解消教員をつけてもらった）。今後も児童の数が減ってきているので、複式学級の研究が必要となってくる。上村小学校は複式学級の研究を進めており、「わり」を使った複式授業を行っている。6月12日に3校ICT研修会を行い、5，6年生の理科の複式授業を参観させてもらい、勉強し合った。プログラミング的思考も取り入れた授業に学ぶことが多かった。国語、算数の複式はよくあるが、理科でも工夫次第で複式が成り立つことが分かった。10月11日の全国へき振協大会では、1，2年の算数複式と5，6年の理科の自由進度学習を公開した。自由進度学習は、子どもたちがそれぞれ課題を持って自分のペースで進める学習である。

子どもたちにアンケートを取って聞いてみると、「とても僕にあっている。やりやすい。」「自分のペースでできてよい。分かったし、楽しかった。」という声があがった。

参会者の先生方は、「一人で一単元を学んでいくものなので、教師もこれまでの一斉学習の発想を変えていかなければ支援は難しい。」という意見をもとに教師の出についても検討した。



理科における自由進度学習  
上村小

## ②遠隔授業と集合学習の取り組み

遠山は ICT モデル地区に指定されて、ICT 機器が充実している。遠隔を使って頻繁に授業を行っている。6月12日の3校 ICT 研修会では、4年生社会科で「ゴミの行方」という授業を行った。和田小・上村小・天龍小の3校でゴミ処理場見学を行っていて、そこで見学してきたことを、遠隔で出し合うという授業だった。上村小1名、和田小5名、天龍小3名と少人数で多様な意見が出にくいなか、遠隔授業では他校の児童の考えに触れて、意見を交換できるということで非常に有効である。遠隔授業の他にも実際に一つの学校に3校が集まって授業を行うという集合学習を年間10時間ほど行っている。体育でバスケットなど集団スポーツを行ったり、大勢で歌ったり、教科学習で教え合ったり、意見を交換し合ったりしている。



遠隔授業



集合学習

2年生での今回二回目の集合学習の様子を和田小学校の学級便りより紹介する。

3校の2年生11名（和田小4名、上村小1名、天龍小6名）が集まって今年二回目の集合学習がありました。昨年からの交流の積み重ねもあり、この11人、なんだか一つのクラスみたいになってきましたよ。今回は特に子どもたちが心を開き合っている姿が見られた気がしました。（中略）子どもたちに「今回は、みんなが迎える側だから、友だちのことを考えて、気持ちよく過ごせるように行動しよう」と話をしました。すると、「みんな、トイレに行くよ」「いっしょに遊ぼう」と声をかけてみんなのことを気にかけている様子が伝わってきました。バスでみんなが帰るときも、最後まで手を振って「バイバイ」と見送りました。去年は見られなかった姿です。今回の4人のはたらきを、教室に戻ってきてから、うーんとほめました。

## ③3校+（天龍小）の合同授業研究会

今年度、へき振興全国大会が上村小で行われた。そこで、夏休み等を利用して3校と天龍小職員が集まって研究会を行った。社会科、保健、理科グループに分かれて、研究会を進めている。授業研究会は、遠隔で行う事もあり、市教委の田中教育指導主事も参加して助言していただいた。3校で授業を改善して、3校の子どもに分かりやすい授業をしていこうという意識が高まった。

へき振協全国大会に向けて、社会科部会は6回合同教科会を開いた。遠隔でやる場合と和田小に集まって行う場合があり、田中指導主事にも参加していただき、アドバイスをしてもらった。保健部会も該当の天龍小、和田小の養護教員だけでなく、遠山中学校の養護教諭も毎回参加してくれて一緒に考えあうことができた。この合同教科会により、教材研究（郷土の発展に尽くした先人のはたらきにつ



社会科合同教科会

いて学ぶ)や授業の流れがすっきりしてきて、本番では、上村小は『山に囲まれた遠山郷に道を開いた初代村長松下逸雄さんの思い』について、天龍小は『植林に人生をささげた熊谷長三郎さんの思い』について、和田小では『南信濃の発展につくした遠山の知恵の知三郎さん』についてそれぞれ調べてきたことを発表しあった。

和田小児童の知三郎さんへのメッセージでは、「知三郎さんが残してくれたものを守っていききたい。」「私も知三郎さんのように、人のために何かをできるようになりたい。」などがあった。それぞれの学校間でもお互いの発表を比較して、似ているところや違うことを発表しあって、学びを深めることができ、遠隔授業の良さが出た授業となった。また、合同教科会を重ねる中で各学校の先生方の力量も高まったり、親交も深まったりすることができた。

#### ④運動と健康に関わることを3校の専門部会での取り組み

3校研究グループに「心と健康・生活」部会があり、養護教諭と担任が所属している。まず、3校の健康の課題について、肥満児が多い小学校、少ない小学校があり、2校が進学する中学校では、どうなっているかを共有し合い、どこに原因があるか考察し、改善に向けて具体的な実践を行った。中学校では視力が悪くなる生徒が多く、その結果を受けて、小学校ではどんなことに注意していけばよいか検討した。

へき振協全国大会では、上村小と和田小の養護教諭が特別活動として3年生を対象に遠隔を通じて保健指導の公開授業を行った。授業では、ご飯には適正量(前時)があり、おやつにも適正量があることを油の量を使い学習していった。

授業を受けた上村小の児童は、家に帰ったらポテチがあって食べようと思った。いつもなら一袋食べるが、チョコレートも食べて、ポテチも食べたら食べ過ぎと思い、ポテチを適正量以下に減らした。他にも、アイスとかも減らしていこうと思った。と話してくれた。和田小の児童も「一日食べていい量が分かったから、気をつけてオーバーしないようにがんばりたい。」と感想を書いている。

#### (2)「人間関係づくり」不登校児童生徒数の減少に向けて

集合学習や遠隔授業や学校行事(修学旅行・臨海学習・長野社会見学等)を一緒に行ったりすることにより、子どもたちは顔見知りになり仲良くなっている。そのため中学校で一緒になってもとまどったり、トラブルを起こしたりすることは少ない。逆にうれしかったり、期待を持ったりすることができ、中一ギャップの解消につながっている。また、3校の先生方が3校の子どもをよく把握しているので、子どもの対応にプラスになっている。

修学旅行や臨海学習ではただ、一緒に行くだけではなく、出発前に2回ほど集合学習でどちらかの学校に集まり、事前学習を行った。また、しおりの読み合わせや係会も行い、上村小の6年生1名も和田小の13名と楽しく旅行に行ってきた。

また中学校主催のキャリア教育講演会に小学校の5、6年生も参加した。地域おこし協力隊でもある太陽堂の水戸さん、飯田コアカレッジの遠山さん、生活就労支援センターの市瀬さんを講師に話を聴き、講師を囲んでの分散会に参加した。



講師を囲んでの分散会

子どもたちの日記には、「AIについて興味を持ち、分散会で詳しく聞けてよかった。」「今日聞いた事を忘れないようにしたい。」などの感想があった。

### (3) 「9年間の教育課程」めざす子ども像に向けた系統的な教育の取組に向けて

3校研究会で9年間の教育課程カリキュラム作成を行っている。また、ESDカレンダーも作成している。ESDについては、麻生大学の小玉教授や信州大学の渡辺教授にも講演してもらったり、助言をいただいたりして研究を深めている。来年度の3校ユネスコスクール登録を目指して実践と研究を進めている。

夏の3校の研修では、信州大学の渡辺先生に「ESDを学び、進めるために」という演題で講演をしていただいた。ユネスコスクール加盟に向けての手順や、SDGsについて理解が深まった。渡辺先生には、講演会の後、分科会にも参加頂き、ESDグループが作成中のESDカレンダーについても示唆をいただいた。

### (4) 「組織の構築」飯田コミュニティスクールの充実に向けて

#### ① 3校合同学校運営協議会の開催

3校の合同学校運営協議会を5月20日に行った。それぞれのコミュニティスクールの取り組みと今年度の計画を発表しあった。霜月祭り等3校共通の取り組みもあるので、連携できるところは3校で連携して行っていくことを確認した。

また、和田小学校・上村小学校・遠山中学校の今後の児童、生徒の推移を予想し、対策を考え合った。

#### ② 遠山3校保小中合同防災訓練事前打ち合わせ会

遠山は台風など自然災害が多い地域である。そこで、和田地区、上村地区の保育園、小学校、中学校、自治振興センターの代表者が集まり、防災訓練の事前打ち合わせ会を行い、9月2日に行われる保小中合同防災訓練の計画を検討して、実行した。また、それぞれの防災計画も見合せて見直しを行った。その会の中で、災害が起きた時も保小中と自治振興センターが連絡を取り合い、子どもたちの安全のために最善の取り組みを行う事を確認し合った。

保護者の感想で、「災害の多い地域なので、例えば登下校中、地震が起きたら一人でどうやってどこへどうすればいいか、登下校班なので確認していけるといい」というものがだったので、さっそく地区子ども会で話題にすることにした。また、台風等で天気が心配な場合は、3校校長・教頭と保育園長が連絡を取り合って対応している。

## 4 課題

### (1) 授業改善

少人数の複式学級の研究や遠隔授業・集合学習は今年度、大きな成果を得た。また、少人数の学校では、とても有効な活動になるので、今後も研究を深め、充実させていきたい。

体力(持久力)を高める活動はあまりやっていないので、3校でできることがあれば考えていきたい。

### (2) 人間関係づくり

小中連携・小小連携を深めることが、不登校減少につながっていく。小中の連携は、まだ少ないので、更にできることを検討して充実させていきたい。

### (3) 9年間の教育課程

2年前から、9年間のカリキュラムづくりを進めて来て、出来上がってきたので、いよいよ来年度からは活用するようにしていきたい。また、新学習指導要領導入のため修正もおこなっていかねばならない。

### (4) 組織の構築

3校合同学校運営協議会で、3校の課題をしっかりとらえて検討していくようにしていきたい。

# 令和元年度 飯田市小中連携・一貫教育推進委員会

## 報 告 書

### <目 次>

I	飯田市小中連携・一貫教育の経過と目指す方向	2
II	「探索期」「深耕期」の総括と「充実期」の位置づけ	3
III	令和元年度の実施	4
IV	令和元年度の実施と検証	
	A 授業改善	6
	B 人間関係づくり	11
	C 9年間の教育課程	16
	D 組織の構築	16
V	令和元年度の総括と令和2年度の方針	18
<参考>	飯田市小中連携・一貫教育推進委員会要綱	21

2020年2月



飯田市教育委員会事務局学校教育課



# I 飯田市小中連携・一貫教育の経過と目指す方向

飯田市では、子どもたちの学力・体力の向上と生徒指導の充実および不登校問題などの教育的課題を解決するために、義務教育9年間を通した「小中連携・一貫教育」を平成23年度から展開してきている。

探索期と位置付けた4年間（H23～ H26）の特長は、与えられたものを受容するのではなく、市教委も、中学校区も、学校も「新たな価値」の創造を目指し、「できるところから始める」「それを積み重ねていく」ことを大事にしてきた。

9つの中学校区は各地域の実情に応じた連携・一貫教育の実践を積み重ね、それぞれのアプローチで教育的課題の解決と飯田市が掲げる子ども像に向かっている。

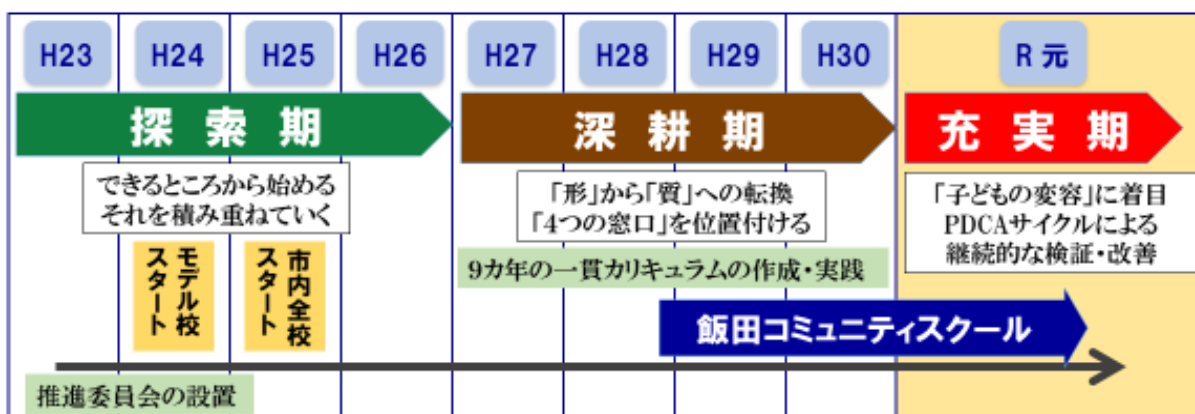
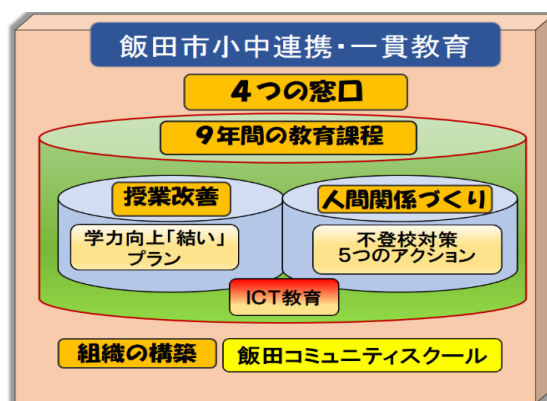
その中で、「小中連携・一貫教育」の実践が、当初の教育的課題の解決だけでなく、我が国や飯田市が直面している少子・人口減少社会に対応した活力ある学校づくりに向けて、有効な手段であることが見えてきた。

9中学校区の目指す子ども像が確立し、全中学校区の取組も2年が経過した【H27年度】は、この小中連携・一貫教育の時間軸を「探索期」から「深耕期」へ、「形」から「質」への転換期と位置付け、「様々な資源を活用しながら「質」の深まりと広がりに着目していくこととした。

具体的には、探索期は「質」の内容が整理されていなかったため、小中学校の先生方が校種を超えた協働を通して小中連携・一貫教育の内実を深く耕すために4つの窓口を位置付けた。

その4つとは、「授業改善」「人間関係づくり」「9年間の教育課程」「組織の構築」である。

また、【H28年度末】に市内全小中学校が「飯田コミュニティスクール」に指定され、活動を始めた。子どもたちを中心に「小中連携・一貫教育」を縦糸に、「飯田コミュニティスクール」を横糸に捉え、学校と地域による協働を通して、飯田市教育ビジョン「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」を目指している。



## Ⅱ 「探索期」「深耕期」の総括と「充実期」の位置づけ

### (1) 「探索期」・「深耕期」の総括

#### 1 探索期（平成 23 年度～平成 26 年度）

- ・平成 23 年度、学力・体力の向上、生徒指導の充実および不登校問題などの教育的課題を解決するために、義務教育 9 年間を通じた「小中連携・一貫教育」がスタートした。
- ・平成 24 年度、鼎中学校区・竜東中学校区をモデル校に指定。翌 25 年度から重点中学校区を決め、「できるところから始める」「それを積み重ねていく」ことを大切に考え、それぞれのアプローチでめざす子ども像の実現に向け展開を進めた。

#### 2 深耕期（平成 27 年度～平成 30 年度）

- ・平成 27 年度からは、小中連携・一貫教育を「形」から「質」への転換をめざすために「4 つの窓口」を位置づけ、「質」の深まりと広がりに着目した取組が進められた。
- ・平成 28 年度末には、小中連携・一貫教育をこれからも持続・発展させていくために、保護者・地域住民と一緒にあって同じ目標に向かって教育活動を進めていく仕組みである「飯田コミュニティスクール」が全小中学校に導入され、活動を始めた。

#### 3 成果

- ・授業改善では、「学力向上『結び』プラン」に基づく授業づくりの徹底が全市的に進むと同時に、中学校区ごとに小中合同職員会等が複数回開催されるようになり、学力や体力の課題分析をもとにした共通の取組が行われるようになった。
- ・人間関係づくりでは、取組当初において不登校児童生徒数が半減（H19 比）するなど大きな成果を上げることができた。後半はやや高止まりの状況が続いているが、チームによる支援や教育支援指導主事等の取組の充実により、中 1 ギャップを減少させることができた。
- ・9 年間の教育課程では、小中共通の「授業規律」や「学習習慣」、「家庭学習の約束」などを決め出して指導を行ったり、9 年間の小中一貫カリキュラム（総合的な学習の時間や外国語教育など）を作成・実践・修正したりするなど、学力・体力向上に向けた一貫性のある指導について共通理解が深められた。
- ・組織の構築では、市内全小中学校が「飯田コミュニティスクール」に指定され、子どもたちを中心に「小中連携・一貫教育」を縦糸に、「飯田コミュニティスクール」を横糸に捉え、学校と地域による協働活動を始めることができた。

#### 4 課題

- ・「探索期」「深耕期」では上記のような成果をあげることができ、これらの好事例を様々な機会でも共有することを通して飯田市全体への広がりが見られた。その反面、取組開始から 8 年が経ち、手段であるべき小中連携・一貫教育の取組そのものが目的化しているおそれがある。「めざす子ども像」にどこまで近づけたのか、あるいは「授業改善」によって学力・体力は向上したのか、「人間関係づくり」によって不登校児童生徒数は減少したのかなど、小中連携・一貫教育の取組による「子どもの変容」の具体的な検証と、それに基づく不断の改善が今後の課題と考えられる。

### (2) 「充実期」の位置づけ

令和元年度から「充実期」と位置づける。

- めざす子ども像の「達成状況」と、達成のための 4 つの窓口から見た「取組状況」について、
- 具体的な「子どもの変容」に着目した PDCA サイクルによる継続的な検証・改善を推進し、
- 小中連携・一貫教育の次なる一步を踏み出す。

### Ⅲ 令和元年度の取組

#### ○ 推進委員会・推進部会 日程

日時・場所	推進委員会 ※全員参加	推進部会 ※部員（名簿の☆）のみ参加
5月30日（木） <input type="checkbox"/> 推進委員会 14:30～15:30 <input type="checkbox"/> 推進部会 15:30～16:30 飯田市役所 C311～C313	<input type="checkbox"/> 第1回 小中連携・一貫教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 委嘱状の交付 <input type="checkbox"/> 正副委員長の選出 <input type="checkbox"/> 研究協議 ・推進委員会の目的と昨年度までの経過の確認 ・本年度の方向と今後の予定について	<input type="checkbox"/> 第1回推進部会 <input type="checkbox"/> 正副部長の選出 <input type="checkbox"/> 研究協議 ・本年度の方向と今後の予定について
9月6日（金） 10:00～12:00 飯田市役所 A301・A302		<input type="checkbox"/> 第2回推進部会 <input type="checkbox"/> 研究協議 ・各中学校区の取組内容の発表、意見交換
11月13日（水） 10:00～12:00 飯田市役所 A301・A302		<input type="checkbox"/> 第3回推進部会 <input type="checkbox"/> 研究協議 ・各中学校区の取組の成果（子どもの変容）と課題の発表、意見交換① ・飯田西中学校区、緑ヶ丘中学校区、鼎中学校区、遠山中学校区
12月16日（月） 14:30～16:30 飯田市役所 A301・A302		<input type="checkbox"/> 第4回推進部会 <input type="checkbox"/> 研究協議 ・各中学校区の取組の成果（子どもの変容）と課題の発表、意見交換② ・飯田東中学校区、竜東中学校区、竜峡中学校区、旭ヶ丘中学校区、高陵中学校区
2月6日（木） 14:30～16:30 飯田市役所 C311～C313	<input type="checkbox"/> 第2回 小中連携・一貫教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 研究協議 ・令和元年度の成果と課題 ・令和元年度実践報告書の発表（各中学校区） ・令和2年度の推進委員会のあり方について	

## IV 令和元年度の取組と検証

～全国学力学習状況調査質問紙調査の結果および

各中学校区実践報告書の「子どもの変容」から～

### A 授業改善

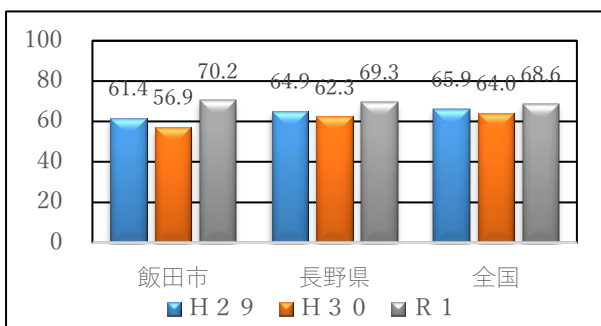
#### 1 学力向上「結い」プラン ※ の視点から

- ※学力向上「結い」プラン
- ① 明確なねらいを持って進める授業
  - ② 学びを深め合う、めりはりのある学習活動
  - ③ ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価

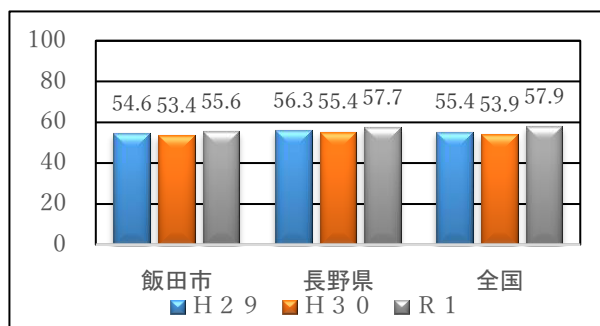
#### 【質問1】算数・数学の勉強は好きですか（学ぶことへの興味・関心）

※それぞれのグラフは、肯定的な2つの回答（当てはまる・どちらかと言えば当てはまる）の合算を示している。  
また、グラフの最小値は60%としたが、60%を下回る数値がある場合は最小値を0%としている。

[小学校児童]

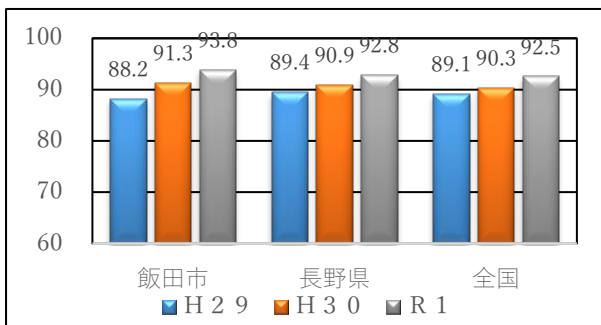


[中学校生徒]

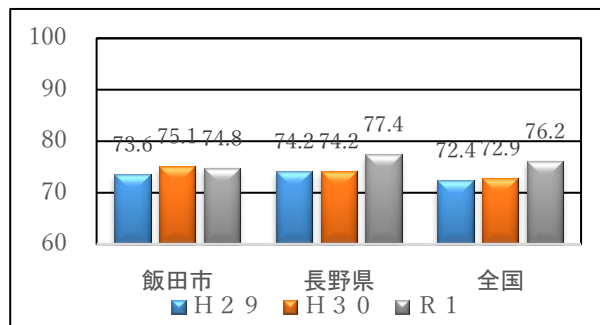


#### 【質問2】算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（自己のキャリア形成の方向性と関連つけながら学びに向かう力）

[小学校児童]

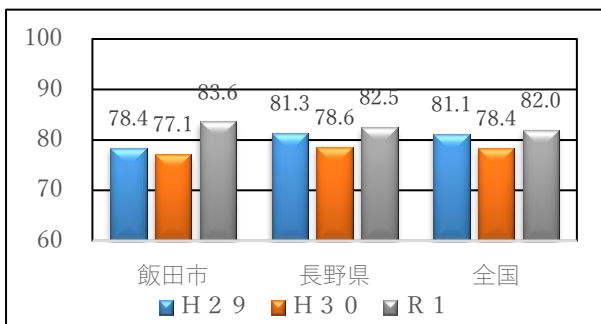


[中学校生徒]

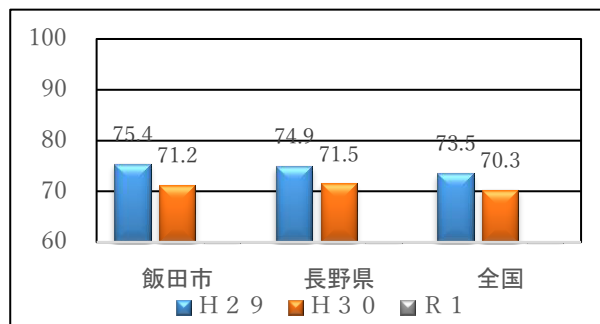


#### 【質問3】算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか（粘り強い学習への取組）

[小学校児童]



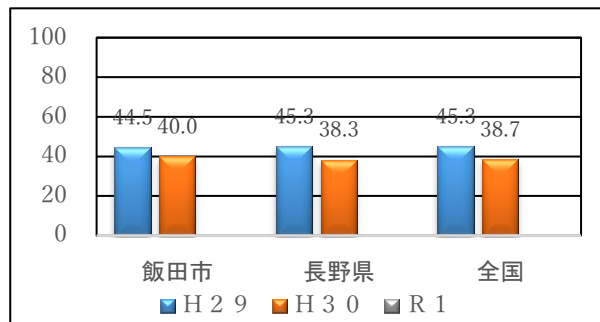
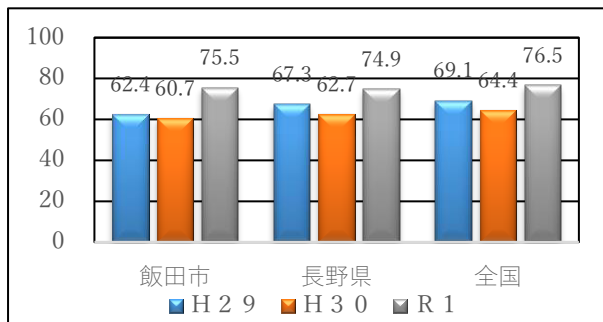
[中学校生徒] ※R1は質問なし（中学校）



**【質問4】算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか  
(自己の学習活動を振り返り、次の学習につなげる)**

[小学校児童]

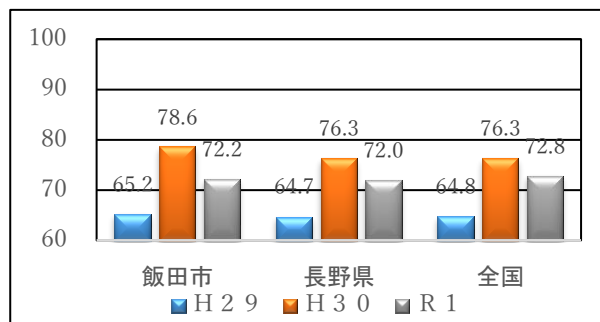
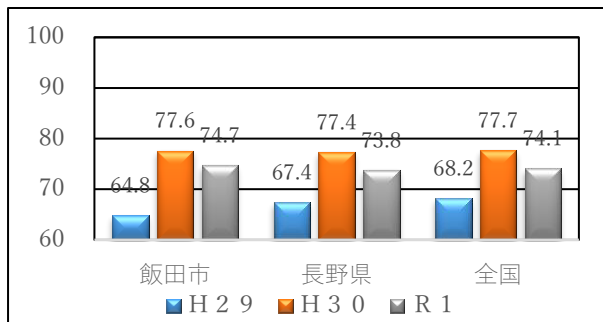
[中学校生徒] ※R1は質問なし(中学校)



**【質問5】学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか(子ども同士の協働学習)**

[小学校児童]

[中学校生徒]



新学習指導要領で示された「主体的な学び」の実現に向けた授業改善の具体的な内容に関わる【質問1～4】では、肯定的な回答の割合が小学校で昨年度に比べ大きく伸びているが、中学校では伸び悩む傾向が見られる。

小学校では、学ぶことへの興味・関心を問う【質問1】が70.2%（昨年度比+13.3ポイント）、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、学びを人生や社会に生かそうとする力を問う【質問2】が93.8%（同+2.5ポイント）、見通しを持って粘り強く課題を追究する力を問う【質問3】が83.6%（同+6.5ポイント）、自己の学習活動を振り返り、次の学習に生かそうとする力を問う

【質問4】が75.5%（同+14.8ポイント）と、それぞれ全国平均より高い結果であり、昨年度に比べ大きく伸びている。このことは、小学校で学力調査（算数）の平均正答率が昨年度より大きく伸びた（△→○）ことと相関関係があると推測できる。反面、中学校では【質問1・2】ともに昨年度とほぼ同じ割合で、このことが平均正答率の伸び悩みの原因の一つであると考えられる。

※【質問3・4】はR1なし

このように、「主体的な学び」に関わる肯定的な回答の割合の伸びと平均正答率の伸びには相関関係があると考えられる。

また、飯田市では平成26年4月から、「学力向上『結い』プラン」を掲げ、授業の3観点を明確にしてすべての教室で9年間を通した一貫性のある授業づくりを進めている。その中で「**2**学びを深め合う、めりはりのある学習活動」と深く関わる「話し合い活動」の取組を問う【質問5】では、肯定的な回答の割合が小中学校とも全国平均に比べ高いが、昨年度に比べやや減少した。



### 【実践事例】全国学調の分析から「話し合い活動」を重点とした中学校区での取組

A中学校区では、質問紙調査の「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」について「当てはまる」と答えた生徒の割合は23.4%（県26.3% 全国28.3%）という結果から、A中学校区の子供も達は、全体の場で話すことに抵抗があり、話し合いを通して学習していくことに苦手意識を持っている子が多い傾向があると捉え、中学校区内のすべての小中学校で以下の3つの手だてを講じた。

- ① 目的を明確にしなが、小さな集団で話し合い練り上げる活動を様々な場面で組む。
- ② 普段の授業の中にグループでの話し合いの場を日常的に設ける。
- ③ 小学校でも中学校でも日常生活の中に小グループで考えを出し合う機会を作る。

#### 最近の授業アンケートより

中学校：「話すことで自分の考えを伝えている」について「できた」30.6%。

小学校：「授業中、進んで自分の考えを書いたり発言したりしている」について「できている」85%

となっており、少人数のグループの中で、自分の考えを伝え合うことを繰り返して行く中で、自分の考えを友達と伝え合うことへの抵抗感が薄れつつある。



### 【実践事例】関わり合いのある授業をめざしたホワイトボードの活用

B中学校区では、学力向上①（基礎基本）グループの話し合いから、小中共通で「関わり合いのある授業」を進めようと、「一人で考える時間」と、「キャッチボールをするための話し方・聞き方」、の2点についての約束ごとを決め出した。また市の「小中連携・一貫教育を推進する創造事業」の交付金を使って、ホワイトボード（小）を購入し、グループ学習を活性化するためのツールとして活用する取組を始めた。

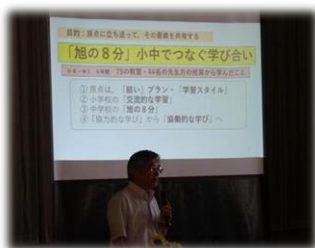


「理科の授業では、ホワイトボードを使って図で表しながら意見を出し合うことで、お互いの考えを共有し深めることにつながった」（中学校）  
「ホワイトボードは、他の子どもが書いたもの書き足していくことができるため、他者理解や、相手を意識した行動ができるようになったと感じることもある」（小学校教員）



### 【実践事例】「C中学校区学習スタイル」の確かな実践と小中をつなぐ学び合い「Cの8分」

C中学校区では、発達段階に応じた授業の約束・進め方・家庭学習の共通事項を位置付けた「学習スタイル」（学力向上「結び」プランが基本）を作成している（H26策定・H28改訂）。その学習スタイルは3校の全職員が年度初めの職員会で確認し、すべての学級で取り組んでいる。



また、合同研修会では教育支援指導主事から、小中それぞれで「学び合い」がどのような具体的な姿で行われているか、各校の実践例が紹介され、全体会で共有された。

- D小…ほとんどの授業の始めに「ふりかえり」「復習」の時間が取られ、本時の学習内容につながるように意識されている。ペア、グループ（4人）による意見交換がほとんどの時間に行われ、わからないままの児童が出ないようにしている。子どもの反応を見ながらちょっと困っている、戸惑っているようなら短時間でも交流させている。
- E小…デジタル教科書を積極的に活用し、問題場面での子どもたちの意味理解がよりよくなるよう工夫されている。グループで考え合うことや考え合った結果を、ホワイトボードに表現することも常時行われている。「Cの8分」を意識したフリーの立ち歩きも取り入れている。
- C中…例を用いた解説の場面も、先生の話だけでなく対話やワークを取り入れて、考えさせながら行われている。「今日の問題はむずかしかったので、絶対に学び合いは必要だった」（1年生の自己評価カード）「このクラスは学び合いがよくなるクラスなので、テストの果で点数が低い人が少なかった。そこに学び合いの成果が現れている」（数学科教員）



### 【実践事例】「グローバル化に対応できる思考力・判断力・表現力の育成」をめざしたICTの利活用（〒校区の実践）

F中学校区では、H29 ICT教育モデル校に指定され、電子黒板やタブレットなどのICT機器をツールとして使用しながら、「グローバル化に対応できる思考力・判断力・表現力の育成」をめざした授業改善をすすめている。



「グループの活動で友達が優しく教えてくれてわかりやすい。」「グループ学習が多いから、話し合いやすい。みんなで解決できて楽しい」（中学生）

「F中学校区に関わらせていただいて7年目になるが、先生方の話を聞いて浸透しているなと思った。人がかわる中で、継続をしてやっていくことは難しい、残すにも努力しなければならないが、当たり前ものになっていてよかった。去年まではこの感覚がなかった。全国でも、タブレットを書いて送ることはやっているが、本校は友達の考えを見ればどうにかなるということが身についている。これは当たり前ではない。自分の力で友達の考えを見る子は全国でも少ない。」（大学教授）

## 2 外国語活動・英語の視点から



### 【実践事例】小中相互の授業参観・小学校への出前授業から教師が学ぶ取組

G中学校区では、小学校から中学校への円滑な接続をめざし、外国語教育研究会が中心となって中学校英語科教員が小学校の外国語活動を参観したり、出前授業を行ったりしている。

リスニング、スピーキング中心で授業が行われるので、中学校でもその利点を生かして、リスニングで考えたり推測したりする工夫を取り入れていかないといけないと感じた。（英語科教員）

ターゲットセンテンスが中学校2年生の教科書に出てくることを知ることができた。また、アルファベットについても聞いて書く段階にあることも知ったので、小学校で学んだことの上に中学校の学習を積み上げ、より表現する楽しさを感じる生徒を育てられると感じた。

（英語科教員）



今日は外国語でG先生と一緒に学びました。とてもハイテンションな先生でした。中学の英語の先生と学べてラッキーでした。なぜかというと中学の先生はとても上手に話していて、私が思っているより発音がよかったからです。(小学生)

とても明るく楽しい先生でした。発音がよくてわかりやすかったです。あと中学校のことも部活や文化祭など少し分かりました。体験入学や入学が少し楽しみになりました。(小学校児童)



**【実践事例】中学校区内の全小学校で外国語活動・英語指導の統一（共通の教材・指導案）**

H中学校区では、共通の指導案をもとに、小学校3校を兼務のALTが中心となり、学習内容を統一した指導を行っている。手作り教材も3校とも同様に作成し、中学校へ進学した時、英語学習が同じ土台からスタートできるように力を付けている。

「繰り返し練習しているうちになんだか英語が話せるようになってうれしい。」「(ALTの)H先生が楽しく声をかけてくれるから、だんだん慣れてきた。」(小学校児童)

### 3 学習規律の視点から



**【実践事例】小中共通の教室掲示物「授業の約束」の活用**

I中学校区では、昨年度完成した「義務9カ年の学習のイメージ」をもとに、小中共通の教室掲示物「授業の約束」の活用を行っている。

小学校低学年では、「失敗間違いOK」のポイントにより、遠慮なく挙手し、発言する児童が増えた。チャムへの意識等は、常に掲示してあり指導、意識付けに効果があった。(小学校教員)



**【実践事例】授業の開始と終了時の挨拶の仕方を小中で統一**

J中学校区では、生活指導グループの提案により、あいさつの徹底。特に、授業の開始と終わりのあいさつを小中足並みそろえて丁寧に行うことを決めた。J中学校では、10月の生活向上月間の中で、生徒会役員が中心となってあいさつ運動を展開する姿が見られた。

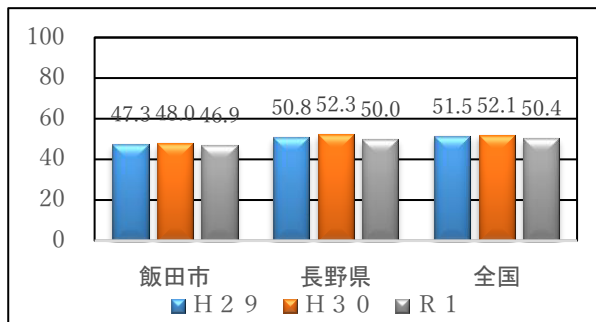
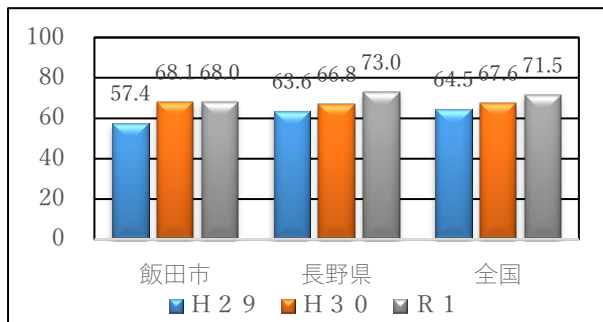
「あいさつの声が大きくなった」「明るい声で返してくれる生徒が増えた」(中学校生徒)

### 4 家庭学習の視点から

**【質問6】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか**

[小学校児童]

[中学校生徒]



昨年度小学校で大幅に改善した「計画を立てて勉強をするかどうか」を問う【質問6】では、小中学校ともに昨年度とほぼ変わらず、全国に比べるとやや低いことが分かる。





### 【実践事例】自主的な学びのための家庭学習の見直し

K中学校区では、学習指導部会が中心となり、子どもたちの内発的な動機による自主的な学びをめざし、小学校では「家庭学習のあり方の研究」を、中学校では「ベストノートの展示」をそれぞれ始めている。



去年、社会のK先生が僕のノートのすごいところを「マイベストノート展示会」で紹介してくれました。認められてうれしかったです。今年はさらにパワーアップした提出ノートにしています。提出が楽しみです。  
(中学校生徒)

## 5 体力向上の視点から

### 「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果から

#### I 体力合計点

- 小学校（5年生）の体力合計点は、男女とも全国平均を下回った。
- 中学校（2年生）の体力合計点は、男女とも全国平均を下回った。
- 小中ともに、男子の体力合計点が過去7年間で最低値あるいは最低値と同水準となった。
- 小中ともに、女子の体力合計点が昨年度より低い、一昨年度よりは高く、漸増傾向が続いている。

#### II 種目別の結果

- 小学校男女で筋力（握力）・投球能力（ソフトボール投げ）の記録が、小学校女子で柔軟性（長座体前屈）・全身持久力（20mシャトルラン）の記録が、それぞれ全国平均より高い。
- 中学校男女で筋力（握力）・疾走能力（50m走）の記録が、全国平均より高い。



### 【実践事例】新体力テストの結果分析を基にした体力向上に向けた小中共通の取組

L中学校区では、新体力テストの結果からは、中学校区共通の課題は見えてこなかったが、運動に対する意識の二極化はわずかではあるが見られた。そこで、運動に苦手意識をもつ子どもにも、運動することが「楽しい」「おもしろい」という体験を多くさせ、その結果として体力の向上を図りたいと考えた。具体的には、今年度は運動に苦手意識のある子ども達も、楽しみながら投げる力や走力を伸ばせるフィールドベースボール（高学年用）と、タグラグビー（低学年の鬼遊び～中学校フラッグフットボールまでつながるもの）を扱った。児童は楽しみながら、ボールを投げたり思い切り走ったりする体育の学習ができた。この学習経験によって、子どもたちは、運動の楽しさを味わうとともに、投げる技術の向上につながった。

運動に苦手意識を持っている子どものフィールドベースボール学習後の感想（小学生）

- ・野球よりもルールが簡単だったし、止まっているボールを自分が好きなタイミングで打つことができ、遠くまで打つと、ホームベースを通り越して、走り続けることができおもしろかった。
- ・守備で何回もボールをなげるうちに投げ方のコツがわかって、遠くまで投げられるようになった。

【実践事例】小中合同の「歩いて登下校」の取組

M中学校区では、新体力テスト結果を踏まえ、体力がない原因の一つに、保護者による車の送迎があるのではないかと予想を立て、登校調査を実施した。年間4回の調査結果を分析し、体力との相関関係を調べ改善策の提案を計画している。

登下校時に車で送迎されている児童生徒

		第1回調査 (6/24)	第2回調査 (7/19)
N小学校	人数	107名/496名	105名/496名
	割合	21.6%	21.2%
M中学校	人数	46名/212名	30名/207名
	割合	21.7%	14.5%

【実践事例】運動と健康に関わる「心と健康・生活」部会の取組

N中学校区では、「心と健康・生活」部会があり、養護教諭と担任が所属している。中学校区内の3小中学校の児童生徒の肥満度について状況を共有し合い、どこに原因があるか考察し、改善に向けて具体的な実践を行った。また、中学校では視力が悪くなる生徒が多く、その結果を受けて、小学校ではどんなことに注意していけばよいか検討した。

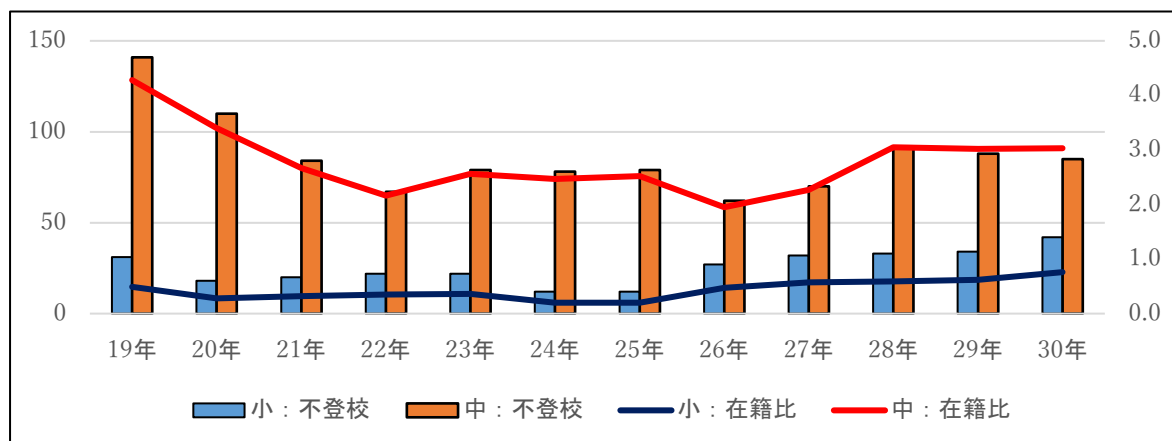
へき振協全国大会では、O小とP小の養護教諭が特別活動として3年生を対象に遠隔を通じて保健指導の公開授業を行った。授業では、ご飯には適正量（前時）があり、おやつにも適正量があることを油の量を使い学習していった。

家に帰ったらポテチがあって食べようと思った。いつもなら一袋食べるが、チョコレートも食べて、ポテチも食べたら食べ過ぎと思い、ポテチを適正量以下に減らした。他にも、アイスとかも減らしていこうと思った。一日食べていい量が分かったから、気をつけてオーバーしないようにがんばりたい。(小学校児童)

B 人間関係づくり

1 不登校児童生徒の現状

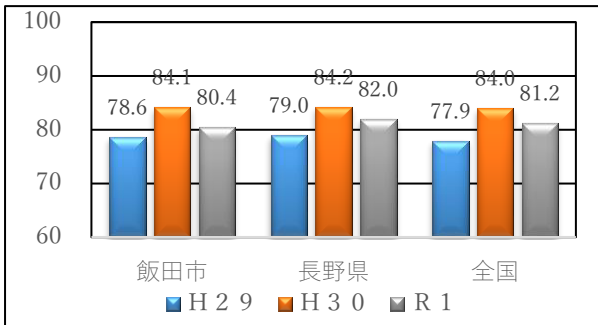
飯田市の不登校児童生徒数と在籍比の推移〔平成19～30年度〕



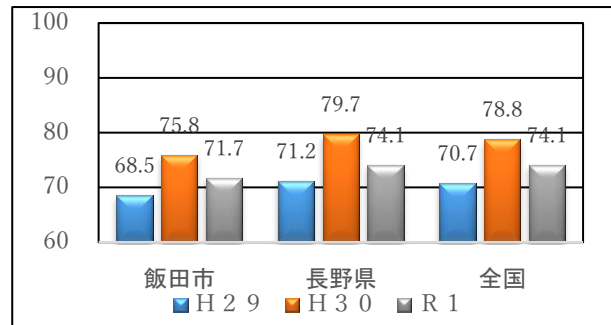
## 2 「互いの良さを認め合える」授業・集団づくりの視点から

【質問7】自分には、良いところがあると思いますか（自己肯定感）

[小学校児童]

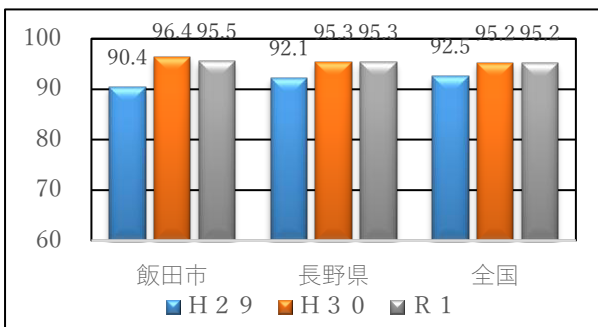


[中学校生徒]

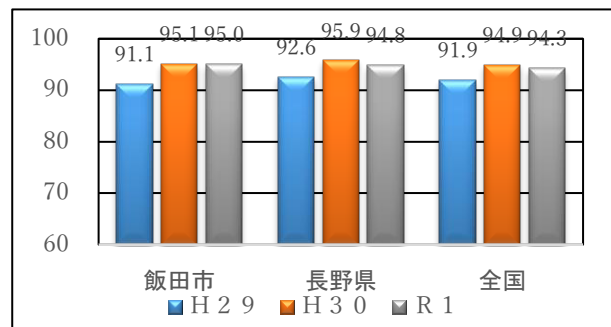


【質問8】人の役に立つ人間になりたいと思いますか（自己有用感）

[小学校児童]



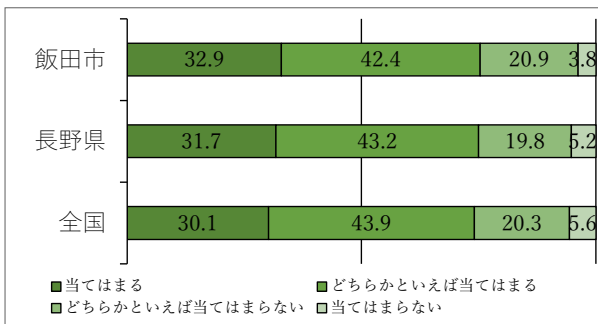
[中学校生徒]



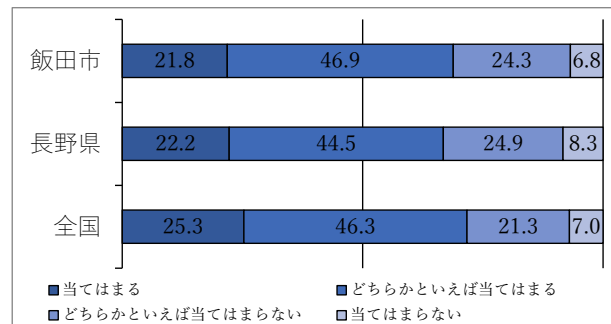
【質問9】学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法などを決めていると思いますか

※H29, H30 は質問なし

[R1 小学校児童]



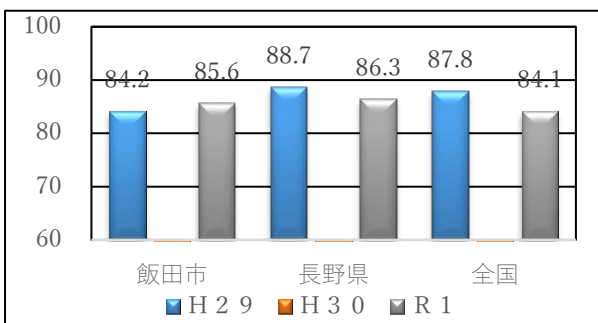
[R1 中学校生徒]



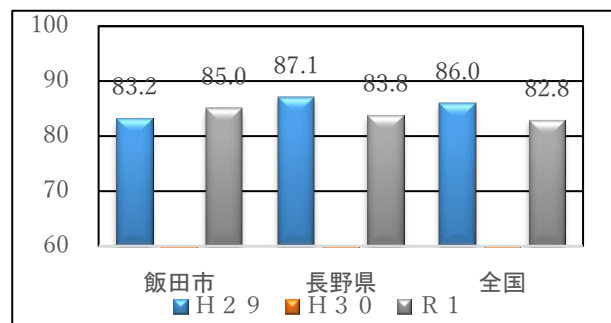
【質問10】学級全員で話し合い決めたことを協力して取り組み、うれしかったことがありますか

※H30 は質問なし

[小学校児童]



[中学校生徒]



2年連続で肯定的な回答の割合が増加した自己肯定感の自覚を問う【質問7】では、割合が前年度よりやや減少したが、一昨年度よりは高く、自己肯定感の自覚が高まっている傾向が続いていると思われる。

また、自己有用感の自覚を問う【質問8】では、【質問7】への回答と同じような傾向が見られ、自己有用感が高まっていると思われ、「人の役に立っている自分」「人の役に立ちたい自分」を子どもたちが強く意識していることが伺われる。

「互いの意見の良さを生かしながら」学級の諸課題を解決しようとする自治的な活動を問う【質問9】では、肯定的な回答が小学校で75.3%（全国比+1.3ポイント）、中学校で68.7%（-2.9ポイント）となっている。また、学級全員の合意形成による課題やテーマへの取組を通して「うれしかった」という達成感の自覚を問う【質問10】では、小中学校ともに肯定的な回答の割合が全国より高く、また前回より伸びている。

### 3 小中交流の視点から



#### 【実践事例】りんご並木の共同作業

（摘果・除草・収穫）

Q中学校区では、中学生と学区内3校の6年生児童との共同作業を行うことを通して、次年度以降、ともに並木に関わっていくという期待感や実感が芽生えるような機会としている。りんご並木の維持管理に、Q中入学予定の児童が加わることで、りんご並木を体験的に知り、りんご並木に対する意識を入学前から醸成することにつながっている。



低い枝は自分で取れたけど、高いところは中学生にはしごを支えてもらって取ることができた。5月から作業をしたりりんごが大きくなってうれしい。最初は枝ごと収穫してしまったけれど、慣れてきたら簡単だった。（小学校児童）



#### 【実践事例】中学校区合同合唱講習会の実施と、小学生の中学校音楽会への参加

R中学校区では、中学校有志合唱団・S小学校合唱団・T小学校合唱団の3校で千葉県から講師をお招きし、合同合唱講習会を行った。3校の交流を通して、今年度の中心課題のひとつである「時間の共有だけではなく児童生徒が心の交流を行うために、感想を交換し合うことで子どもたちが相手意識をもったり、感受力を高めたりできるようにする」というねらいに近づくことができた。

また、小学生が中学校の音楽会へ参加するにあたっての心構えや練習の仕方を確認し、さらに、学芸会の感想を、相手意識をもって「手紙で伝え、中学生から返事をもらう」等の交流の場を設けた。

「小学生と関わりながら、楽しく発声を学ぶことが出来たのでよかった」（中学校生徒）  
「中学生とペアで発声練習ができて楽しかった」「なかなか他校の合唱団の練習風景をみることでできないので貴重な機会だった」（小学校児童）



#### 【実践事例】小中交流清掃の取組（小学校の整美委員が中学校清掃の体験活動）



U中学校区では、7月に小学生の整美委員が中学校に出向き、中学の清掃を体験させてもらう活動を行った。清掃前にまず1分間の「黙想」を行い、気持ちを切り替えて今日の清掃について静かに考え、その後一言も喋らずに清掃を行った。参加した小学生は、そうした中学生の真剣に清掃に取り組む姿を見て、全員が徹底して無言で行うことの大切さを学んだ。その後、学校へ戻って振り返りを行い、清掃の仕方についても、無言で行う心構えについても、整美委員がまず中心になって全校がよりよい清掃の姿を目指せるよう活動してきている。

「小学校の頃と違って、どうしてそうやって無言でできるのか」という問いに対して

- ・中学に入ると先輩が黙ってやっているから、みんな自然と黙って掃除をするようになった。（中学校生徒）

## 4 特別支援教育の視点から



#### 【実践事例】中学校特別支援学級及び1学年の授業参観と説明会の開催

V中学校区では、6月に中学校特別支援学級及び1学年の授業見学と説明会を行った（授業参観→中学校より説明→質疑応答）。昨年度までは小学校保護者（5．6年）が対象だったが、今年度から児童も加えた。この会は、保護者にとっては就学判断の材料にもなるので必要不可欠と感じている。児童にとっても早い時期に中学校の様子を知ることは大切なので、今後もこの方向で行う予定である。また、10月には小中の特別支援学級のりんご収穫交流会を開き、収穫体験と記念撮影、試食交流会を行った。



児童にとっては、中学校のイメージをつかんだり、礼儀やソーシャルスキルを学んだりする良い機会になった。また、6年生にとっては他校の支援学級と交流することで、来年度の仲間の雰囲気もわかり、中学校への見通しをもつ機会にもなった。

中学生は当日の進行やあいさつ、班の児童の世話などの役割分担を決め、先輩らしく、小学生をしっかりもてなすというミッション遂行のために、その役割を果たそうという姿が見られた。ふだん中学生のなかでは見られないがんばりや生き生きとした姿がこの会で見られ、大勢の前での挨拶や進行も、原稿を用意して臨むなど、中学生が成長できる好機会になった。

（中学校教員）



#### 【実践事例】6年生児童・保護者の特別支援学級授業参観・説明会の開催

W中学校区の事例



保護者の感想

- ・大勢の場所が苦手な、学校へなかなか通えなかったが、ようやく小学校の特支のクラスに通えるようになってきたところです。中学校の特支の授業が、こんなに少人数で、これなら落ち着いて過ごせる場所があると分かって来て良かったです。
- ・一人一人のペースに合わせて学習が行われていることが分かって良かったです。



### 【実践事例】 中学進学に向けた年間計画の作成と、個別の教育支援計画の形式の見直し

X中学校区では、特に配慮を要する児童生徒について、中学校進学に向けて継続した指導・支援ができるよう、下記の点に留意しながら小中で情報共有を丁寧に行っている。

- ア 中学校に向けての特別支援関係（情報交換会 授業参観等）の年間計画を作成し、入学までの流れを小学校も把握できるようにする。
- イ 小学校の特別支援学級在籍児童を中心に、中学校の職員と保護者との面談や中学校の授業参観を複数回実施。
- ウ 特別支援学級に在籍する児童から枠を広げ、通常学級に在籍しているが、中学校に入学後、不適応を起こす心配のある児童についても、早い時期から細かく情報交換をする。

これらの取組の結果、昨年度、小学校から特別支援学級在籍の子と通常学級に在籍しているが困り感の強い子ども（不適応を起こす心配のある児童など）について、何名かの名前が上がってきたが、現在、中学校ではほぼ全員が、元気に中学校生活を送ることができている。

「中学生になったYさんが明るく勉強していたし、中学校の先生は元気で良い感じだった。」  
「特別支援学級は、中学校に行っても安心できる居場所になりそうだ。」「中学校の勉強は難しいと心配だったけど、授業の内容がとともわかりやすかった。」（小学生児童）

## 5 教育支援指導主事の支援から



### 【教育支援指導主事の実践事例】

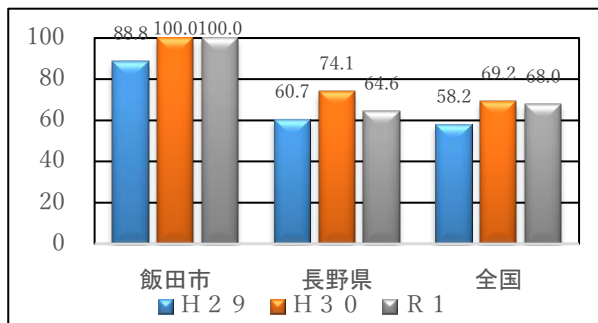
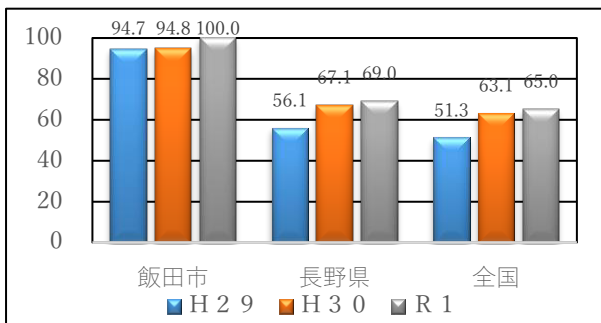
- (1) 小5・6、中1それぞれの授業にTTとして入ることで「中1ギャップ」を防いだ取組  
・ Y中学校区のZ教育支援指導主事は、午前中は小学校の算数の授業に、午後は中学校の数学の授業にそれぞれTTとして入り、学習集団の実態や児童生徒個々の困り感に応じた支援に心かけている。基本的な学習習慣の形成など、算数・数学の学習に戸惑いを感じ、自信が持てていないでいる児童生徒のつまづきを解消することで、算数・数学の授業は楽しいと感じることができ、「学業不振」に起因する不登校及び「中1ギャップ」を未然に防いでいる。
- (2) 中1生の生活を記事にした新聞の発行を通して、中学校進学への心の準備を促した事例  
・ a中学校区のb教育支援指導主事は、中学校1年生の学習や生活の様子を「a中学校新聞」で伝えている。昨年度「中学校に入学して、小学校でやっておけば良かったこと」についてアンケート結果をまとめた新聞をもとに、小学校の学級担任と連携して指導を行ったところ、今年度「小学校でやっておいて良かったことは？」の質問に対して、「勉強」と答えた生徒が61%いた。（前年度は11%）この結果から、中学校で困らないように、小学校時代から授業や宿題など学習に意識を持ち取り組んできたことが分かる。
- (3) 中学校の新入生受入係との継続的な連携により、入学後の学校不適応が解消した事例  
・ c中学校区のd教育支援指導主事は、小学校6年生の中に、学習指導・生活指導で課題を抱える児童が複数在籍していたことから、他の教育支援指導主事と共にc中学校の新入生受入係と連携し、継続的に入学後の受入体制づくりを助言してきた。その結果、今年度は、昨年度不登校傾向だった生徒が毎日登校できたり、学習不振の生徒が主体的に学習に向き合おうとしたりするなど、心配された生徒たちが中1ギャップを乗り越えることができた。

## C 9年間の教育課程

【質問 11】 近隣の小中学校と、教育課程の接続や共通の目標設定などの取組を行いましたか

[小学校教員]

[中学校教員]



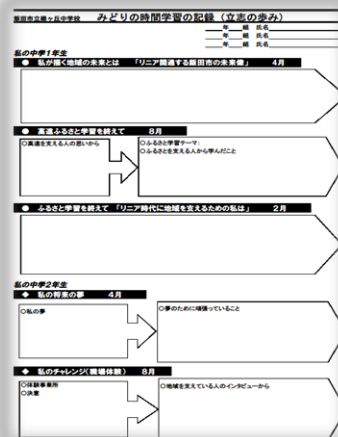
平成 23 年度から全中学校区で進められている「小中連携・一貫教育」は、探索期 4 年間・深耕 4 年間を終え、今年度から充実期 1 年目として、それぞれの中学校区で展開されている。

【質問 11】の結果から、近隣の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った割合が、飯田市では小中学校ともに全国・県平均を大きく上回っている。



### 【実践事例】 飯田型キャリア教育の視点で総合的な学習の時間一貫カリキュラムの作成・修正

e 中学校区では、飯田型キャリア教育の願う子どもの力の視点から見た各学年の主な活動の決めだし、「ふるさと学習」としてふるさとを誇り、ふるさとのよさを語る子どもの育成を図っている。また、中学校のキャリアパスポート「立志の歩み（案）」を参考にして、小学校の学びと中学校の学びをつなげる研究と小学校キャリアパスポートの作成にむけての検討を始めている。



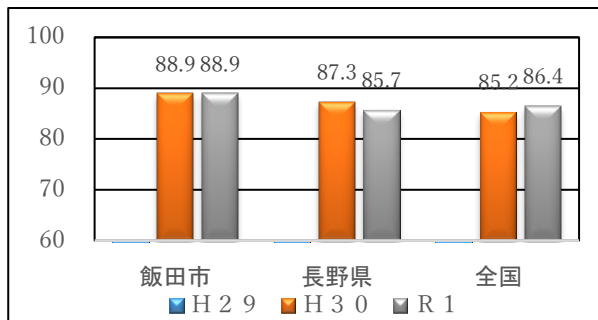
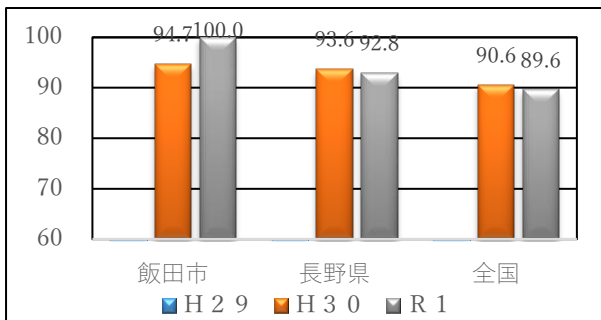
## D 組織の構築

【質問 12】 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか

[小学校教員]

[中学校教員]

※H29 は質問なし

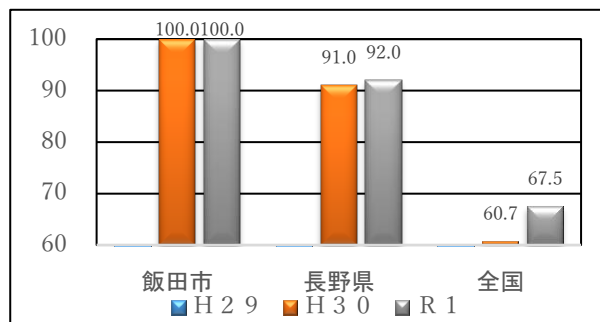
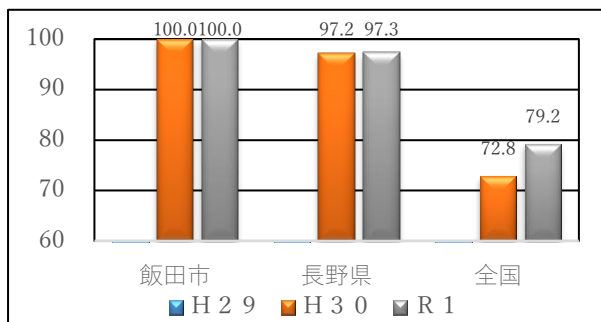


【質問 13】 コミュニティスクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか

[小学校教員]

[中学校教員]

※H29 は質問なし



教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っているかを問う【質問 12】では、肯定的な回答の割合が小中学校ともに全国・県より高く、特に小学校では昨年度に比べ 5.3 ポイント伸び、100%となっている。各校の学校運営協議会等の場で、「めざす子ども像」を実現するために「学校がすること」「家庭がすること」「地域がすること」の協議と共有が行われていることが分かる。【質問 13】からは、コミュニティスクールの仕組みを生かした地域と学校との協働活動（学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など）への参加率が飯田市の小中学校では 100%となっている。



【実践事例】小中連携職員研修会に学校運営協議会委員が参加し、意見交換を行った事例

f 中学校区では、小中連携職員研修会に中学校区 3 校の学校運営協議会委員の方々全員に出席していただき、地域の願いや課題を学校と地域が共有し、めざす子ども像の実現を図る取組を行っている。

先生方の、子どもたちを前にした普段の姿とは違うプロの教育者としての姿を伺うことができた。学力向上委員会に出席し発言もさせていただいたが、f 中の全クラスの授業参観から、昔に比べて先生方の授業の進め方や子どもたちとの対話の進化に納得した。先生方それぞれの（授業の）スタイルがあるにせよ、「学習のイメージ」表にあるような大枠があれば、先生による差異も少なくなると感じた。（学校運営協議会委員）



【実践事例】地域課題を教科学習に位置づけるために、学校運営協議会コーディネーター会議を定例化させている事例

g 中学校区では、h 公民館・i 公民館・j 公民館の主事と、地域コーディネーターによる会議を定例化し、それぞれの小学校コミュニティスクールの活動の情報交換や、地域課題をどのように教科学習に位置づければ良いかについての協議を行っている。

小中ともに学校支援や地域行事参加など地域連携は進んでいる。これからは地域の課題をいろいろな教科学習のどこかにちょっとずつ入れることが大切になる。それが本当の意味の子どもを真ん中においた地域とともにある学校の構築になり、新しい学校指導要領の社会に開かれた教育課程につながると思う。（地域コーディネーター）



## V 令和元年度の総括と令和2年度の方向

(1) 令和元年度の成果と課題 ○成果と思われる点 ●今後の課題と思われる点

### 全体を通して

- 「充実期」1年目にあたり、各中学校区の実践について、具体的な「子どもの変容」に着目しながら到達目標の評価（Ⅰこんな姿になることをねらって、Ⅱ小中で共通してこんな取組をしたら、Ⅲこんな姿が見られた、可視化できた）を行ったことは、小中連携・一貫教育の取組をPDCAサイクルで継続的に検証・改善していくことにつながった。また、実践事例の発表や合同職員会の公開等から取組の成果と課題の共有が図られ、好事例の飯田市全体への広がりが見られる。
- 「めざす子ども像」や、めざす子ども像の達成のための4つの窓口から見た各中学校区の「取組」については、新学習指導要領で示されている「新しい時代に必要となる資質・能力の育成（何ができるようになるか）」の視点から見返し、必要に応じて更新することが求められている。

### A 授業改善

- 中学校区ごとに複数回行われる合同研修会（部会・委員会）では、「授業改善」を協議の中心に据え、新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に向け、「学力向上『結い』プラン」の徹底や小中学校間での教育課程の接続・共通の目標設定等、学力向上に向けた一貫性のある指導について共通理解が深められている。

### B 人間関係づくり

- 学力向上や人間関係づくりの基盤となる「心豊かな人づくり」をめざし、「自分のよいところ、他人のよいところを、お互いに認め合うことができる学級づくり」「どの子にとっても居心地のよい学級づくり」のための開発的・予防的な生徒指導や、特別支援教育の組織的な取組を学校運営の柱に位置づけた教育実践が各中学校区で進んでいる。
- 不登校児童生徒の在籍比率は小学校でやや増加傾向・中学校で前年度並みであるが、学級担任を中心に、校長・教頭をはじめ、教育支援指導主事など複数の学校関係者によるチーム支援を通して、新規を出さない取組、継続者を早期に復帰させる取組が小中連携で行われている。

### C 9年間の教育課程

- 小中一貫カリキュラムの作成は、各中学校区の特徴を生かしやすい教科・領域で進められている。具体的には総合的な学習の時間の中で行う「ふるさと学習」や「キャリア教育」および「外国語教育（昨年度、試案を提示）」で作成し、実践・修正が行われている。

### D 組織の構築

- 教育課程の趣旨（学校グランドデザイン）について、コミュニティスクールの学校運営協議会で相互承認と評価が行われ、学校と地域・家庭が協働して子どもたちを育む取組が確実に行われている。また、各中学校の合同職員研修会に学校運営協議会委員や地域の保育園関係者が参加するなど、小中連携・一貫教育の取組を地域全体で推進しようとしている。

## (2) 令和2年度 小中連携・一貫教育（各中学校区）の方向（案）

- 1 めざす子ども像の達成や、達成のための4つの窓口から見た取組を充実させるために、各中学校区の「取組の重点」を、新しい時代に必要となる資質・能力育成の視点から、保護者・地域とも相談しながら具体的に決め出し（可視化し）、それぞれ推進する。
- 2 「取組の重点」の進捗状況について、具体的な「子どもの変容」に着目したPDCAサイクルによる継続的な検証・改善を行う。（効果が見られる取組は更なる充実・横展開を図る）

※下線部分はR2新規

### ○4つの窓口から見た「取組の重点」（例）

#### 1 「授業改善」学力・体力の向上に向けて

- ・全国学力・学習状況調査の結果や全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果などの分析から中学校区の課題を分析し、改善のための取組を小中が共通で行う。
- ・新学習指導要領の示す「新しい時代に必要となる資質・能力」を育成するために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善にかかわる研究を小中合同職員会等で進める。

など

#### 2 「人間関係づくり」不登校児童生徒数の減少に向けて

- ・不登校の未然予防のために、SCやSSWなど外部の専門家の活用を積極的に行い、開発的・予防的な生徒指導を充実させる。
- ・不登校児童生徒の登校を促すために、小中共通の「不登校支援シート」を用いて長期・短期目標や、方針、役割分担を決めたり、定期的に更新したりするなどのチーム支援で行う。

など

#### 3 「9年間の教育課程」めざす子ども像に向けた系統的な教育の取組に向けて

- ・一貫カリキュラム（外国語教育）の作成、一貫カリキュラム（総合的な学習の時間・キャリア教育）などの修正を行う。
- ・小中共通の「授業規律」や「学習習慣」、「家庭学習の約束」などを決め出し、指導を行う。

など

#### 4 「組織の構築」飯田コミュニティスクールの充実に向けて

- ・学校運営協議会や学校支援組織との会合を通して、地域の願いや課題を学校と地域が共有し、めざす子ども像の実現を図る。
- ・将来的な中学校区での統合をめざし、「めざす子ども像」や「家庭ですること」「地域ですること」の小中間の擦り合わせを進める。

など

## (3) 令和2年度 小中連携・一貫教育推進委員会の方向（案）

### 1 推進委員会 年2回

- ・「(小中連携・一貫教育の)方針の策定及び全体調整を行う(要項第2条)」
- ・委員の構成はR1と同じ

### 2 部会 年4回(第1回部会は、第1回推進委員会時に行う)

- ・「調査研究を行うために部会を置くことができる(要項第7条)」
- ・部員の構成は学識経験者(2名)、中学校区代表校長(9名)、教育支援指導主事(14名)、事務局。4つの窓口にかかわり研究を深める。結果を最終の委員会で報告。

(4) 令2年度 推進委員会・推進部会 日程(案)

中学校区(例)		飯田市教育委員会
○年度当初の打合せ (校長・教育支援指導主事等)	4月	○第1回校長会・教頭会
○中学校区合同職員会等① ※年間の方向性(先生方一人ひとりが子どもの変容の姿を追うこと)の確認	5月 6月	○教育委員会5月定例会 ○推進委員会①・推進部会① 6月第一週(議会前) R1は5/30
○中学校区合同職員会等② ※子どもの変容の姿で検証 1/2	7月 8月	
	9月	○推進部会② 9月第一週 R1は9/6 ※「取組内容【行動目標】」の評価
○中学校区合同職員会等③ ※子どもの変容の姿で検証 2/2	10月 11月	
	12月 1月	○推進部会③ 12月第三週 R1は11/13 ○推進部会④ 1月第二週 R1は12/16 ※「取組の成果【到達目標】」の評価 ※③④ともに原稿〆切 12月上旬
○中学校区合同職員会等④ ※年間の見返しと次年度の方向決め (他中学校区の好事例に学ぶ)	2月 3月	○教育委員会2月定例会 2月第二週 ○推進委員会② 2月第二週(議会前) R1は2/6 ○第5回飯田市校長会・教頭会

(設置)

第1条 飯田市の義務教育9年間において、小学校、中学校が相互に連携し、系統的、総合的な指導体制及び教育環境の充実を図る具体的な検討を行い、もって一貫性のある効果的な教育（以下「小中連携・一貫教育」という。）を推進するため、飯田市小中連携・一貫教育推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項の方針の策定及び全体調整を行う。

- (1) 小中連携・一貫教育の指導体制及び教育環境に関すること。
- (2) 小中連携・一貫教育の教育課程に関すること。
- (3) その他小中連携・一貫教育に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員21人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者から飯田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 地域代表者
- (3) 学校教職員
- (4) 児童生徒の保護者
- (5) 学校運営協議会委員
- (6) 公民館関係者
- (7) その他教育委員会が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

(部会)

第7条 委員長は、第2条に規定する委員会の所掌事項に関して、調査研究を行うために部会を置くことができる。

2 部会員は、部会設置の目的に応じて教育委員会が委嘱する。

(意見の聴取等)

第8条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、教育委員会事務局学校教育課において行う。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

前文(抄)

平成23年4月13日から施行する。

前文(抄) (平成24年3月21日教委告示第5号)

平成24年4月1日から施行する。

前文(抄) (平成27年12月25日教委告示第4号)

平成28年4月1日から施行する。

前文(抄) (平成28年12月14日教委告示第21号)

平成29年4月1日から適用する。